

(3) 結果

1) 主観的要素の把握・分析

沖縄のこどもの幸福度等に関する主観的要素を調査するため、2 種類の調査票のうち設問文・選択肢が共通する設問(図表 53 参照)を集約して 10～17 歳に関する全般的な集計及び分析と、こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」と共通の設問を用いた設問(図表 53 参照)を対象とした集計及び分析を行った。

集計は、全体と 4 属性(年齢、家族類型、居住地域、本島・離島別)で行った(図表 66、図表 67)。
2.3.1 (1)に記載したとおり、沖縄県のこどもの人口構成比を反映するため、性・年齢・地域別にウェイトを付して集計を行っており、集計の回答割合の母数は沖縄のこどもの人口であることから、回答数は記載していない。

なお、属性で集計する際に、ウェイトを付す前の有効回答数が極端に少ない場合(30 サンプル以下とした)は統計学的に信頼性が低いため、該当する属性区分には注釈を付記しており、解釈に留意が必要である(図表 68)。

図表 66 アンケート集計の属性と区分

属性	区分
年齢	10 歳、11 歳、12 歳、13 歳、14 歳、15 歳、16 歳、17 歳
家族類型	ふたり親世帯(2 世代)、ふたり親世帯(3 世代)、母子世帯、父子世帯、その他の世帯
居住地域	北部、中部、南部、宮古・八重山
本島・離島別	本島、宮古島・石垣島、その他の離島

図表 67 本島・離島別の区分

居住地域	市町村	本島・離島別	居住地域	市町村	本島・離島別
北部	名護市	本島	南部	那覇市	本島
	国頭村	本島		糸満市	本島
	大宜味村	本島		豊見城市	本島
	東村	本島		南城市	本島
	今帰仁村	本島		与那原町	本島
	本部町	本島		南風原町	本島
	恩納村	本島		八重瀬町	本島
	宜野座村	本島		渡嘉敷村	その他の離島
	金武町	本島		座間味村	その他の離島
	伊江村	その他の離島		粟国村	その他の離島
	伊平屋村	その他の離島		渡名喜村	その他の離島
中部	伊是名村	その他の離島	宮古・八重山	南大東村	その他の離島
	宜野湾市	本島		北大東村	その他の離島
	浦添市	本島		久米島町	その他の離島
	沖縄市	本島		宮古島市	宮古島・石垣島
	うるま市	本島		石垣市	宮古島・石垣島
	読谷村	本島		多良間村	その他の離島
	嘉手納町	本島		竹富町	その他の離島
	北谷町	本島		与那国町	その他の離島
	北中城村	本島			
	中城村	本島			
	西原町	本島			

※ 離島とは、沖縄本島から離れた離島市町村とする

図表 68 有効回答数の属性別集計²³

属性・区分		全体	10～14歳	15～17歳
全体 性別		1,735	987	748
	男性	828	480	348
	女性	883	497	386
	その他	*24	*10	*14
家族類型	ふたり親世帯	1,392	819	573
	母子世帯	270	140	130
	父子世帯	40	*23	*17
	その他の世帯	33	*5	*28
居住地域	北部	127	81	46
	中部	713	380	333
	南部	682	397	285
	宮古・八重山	210	129	81
	その他	*3	*0	*3
本島・離島別	本島	1,495	838	657
	宮古島・石垣島	198	117	81
	その他の離島	39	32	*7
	その他	*3	*0	*3

* は、有効回答数が 30 以下のものであり、集計結果の解釈には留意が必要。

※ 集計後は、ウェイトを付しているため、性別「その他」、居住地域「その他」、本島離島別「その他」において集計値はなくなる

a. 10～17 歳に関する集計

10～17 歳に関する全般的な集計の結果のうち、代表的な結果を掲載する。

【結果 1】沖縄のこどもは幸福度が高い

自分が幸せだと思うか(問 2)(図表 69)では、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合算した回答割合は、いずれの属性でも 9 割程度であった。

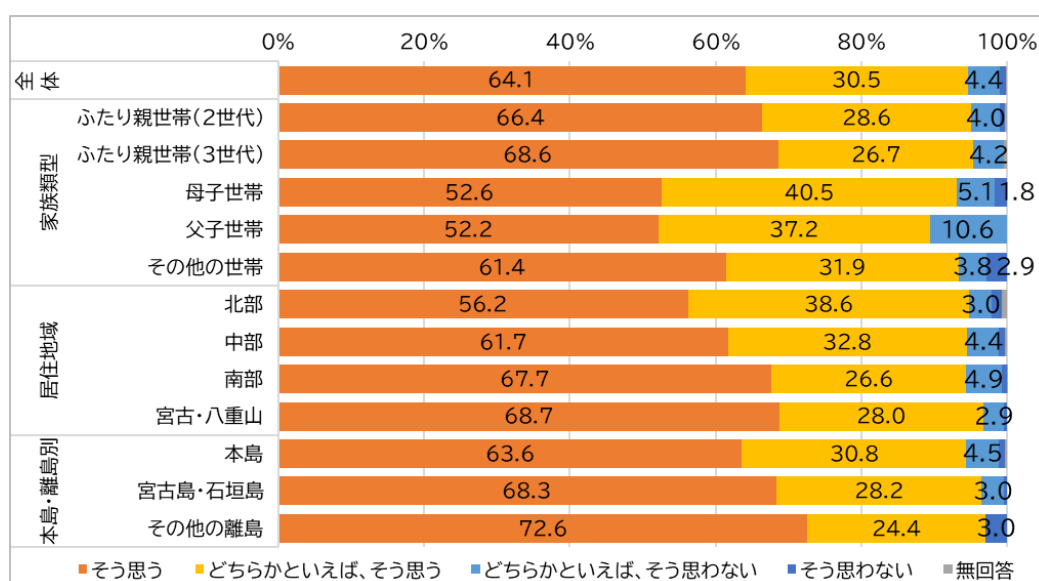
今の自分が好きだ(問 1 ア)(図表 70)では、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合は、ふたり親世帯(2 世代)が 81.2%、ふたり親世帯(3 世代)が 85.6%、ひとり親世帯(母子世帯)が 78.6%、ひとり親世帯(父子世帯)が 78.4%であった。親から愛されていると思うか(問 1 イ)(図表 71)でも、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合がいずれの属性でも 9 割程度となったが、父子世帯で他の世帯よりも低かった。また、孤独だと感じるか(問 5)(図表 72)では、「決してない」「ほとんどない」を合算した回答割合は、父子世帯が他の世帯よりも 10 ポイント以上低い結果となった。

²³ 属性別集計では「在学学校別」の集計も考えられる。在学学校は、10～14 歳票では設問 F4、15～17 歳票では F4-1 の設問に該当する。このとき、15～17 歳票については在学学校別に集計すると、統計(学校基本調査)と比較して中卒者が多い結果となった。具体的には、統計(学校基本調査(沖縄県))では「中卒者」の割合は 0.6%であるところ、本業務での「中学校」(つまり中卒者)の回答割合は 18.7%であった。本事業のアンケートでは全国の結果と比較するため、一部の設問は、こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」と同じものを採用しており、「在学学校」(F4-1)も同様に同じ設問を採用している。こども家庭庁のアンケート結果でも、年齢別 15～19 歳の「中学校」(つまり中卒者)の回答割合は 10.8%となり、統計と比較して多くなっている。この中卒者の回答割合の統計との乖離は、質問の仕方「あなたが最後に卒業(中退を含む)した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。」に原因があると考えられる。この質問の仕方は、学校を出た社会人にとっては妥当であるが、在学中の高校生(や大学生)にとっては、在学中の学校ではなく、卒業した学校を誤答する原因になり得る(解決策としては、質問文の順序を逆にすると誤答しづらくなると考えられる。)。本業務での集計や協議体での報告では、この設問(F4-1「在学学校」)ではなく、年齢を用いた集計を提示しているため影響はない。ただ、在学学校別(小中高別)の集計や、中卒の 15 歳、16 歳、17 歳に限定して分析を行う場合には、統計との乖離が影響するため留意が必要である。

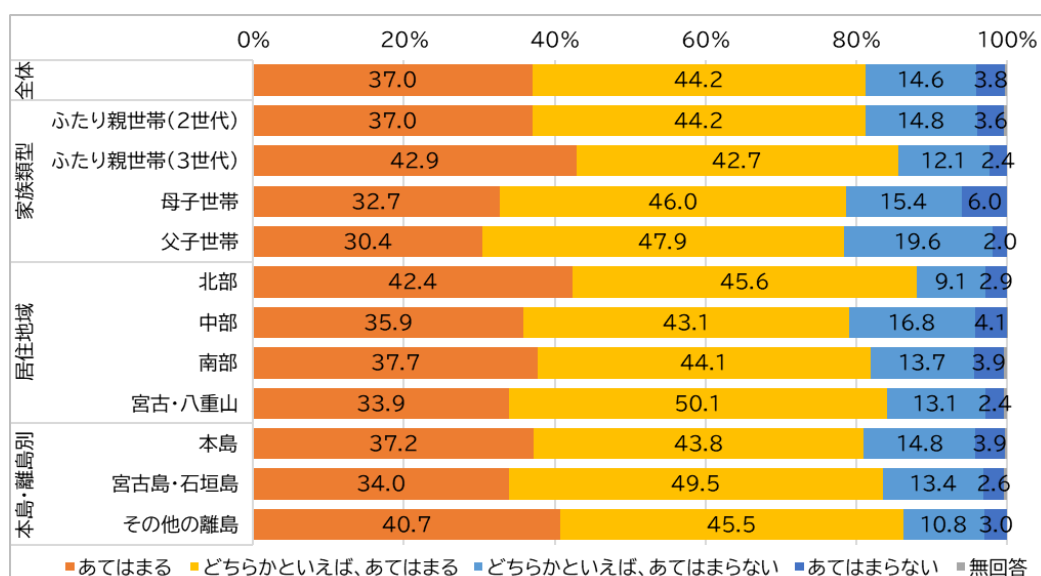
【結果 2】離島のこどもは、本島のこどもよりも自己肯定感が高い・孤独感が低い

今の自分が好きだ(問 1 ア)(図表 70)では「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合を本島・離島別にみると、本島(81.0%)、宮古島・石垣島(83.5%)、その他の離島(86.2%)であり、本島と比較して、宮古島・石垣島は 2.5 ポイント、その他の離島は 5.2 ポイント高かった。孤独だと感じるか(問 5)では、「決してない」「ほとんどない」を合算した回答割合を居住地域別にみると、宮古・八重山は、他の地域よりも 5 ポイント程度高かった(図表 72)。

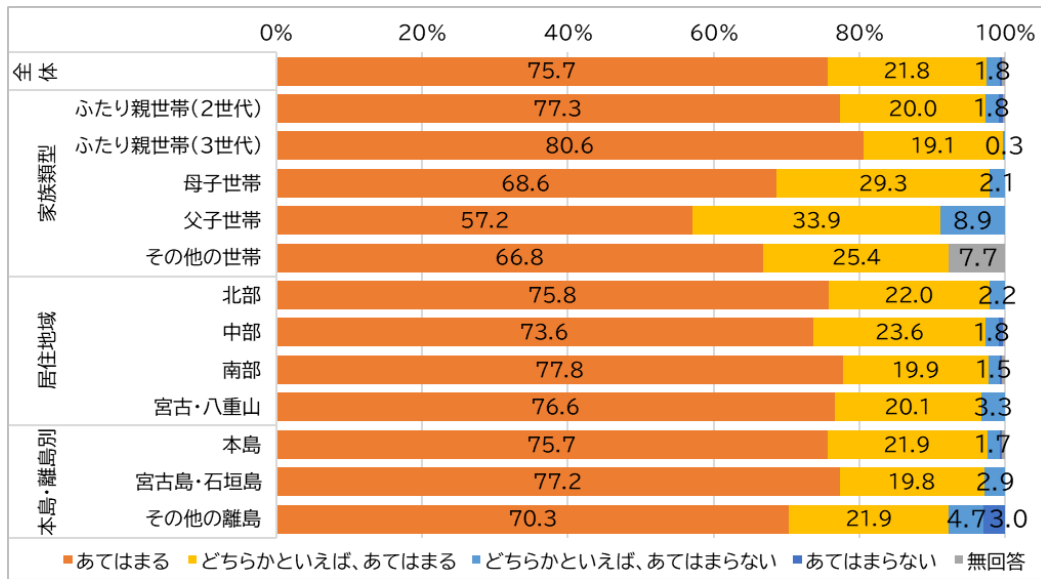
図表 69 自分が幸せだと思うか[問 2](10～17 歳)



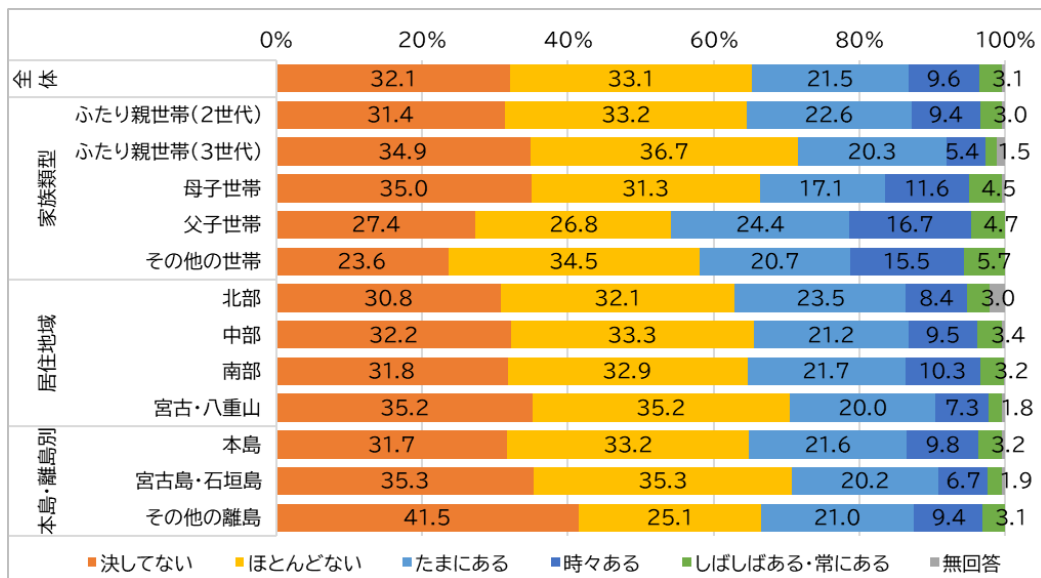
図表 70 今の自分が好きだ[問 1 ア](10～17 歳)



図表 71 親から愛されていると思うか[問 1 イ](10～17 歳)



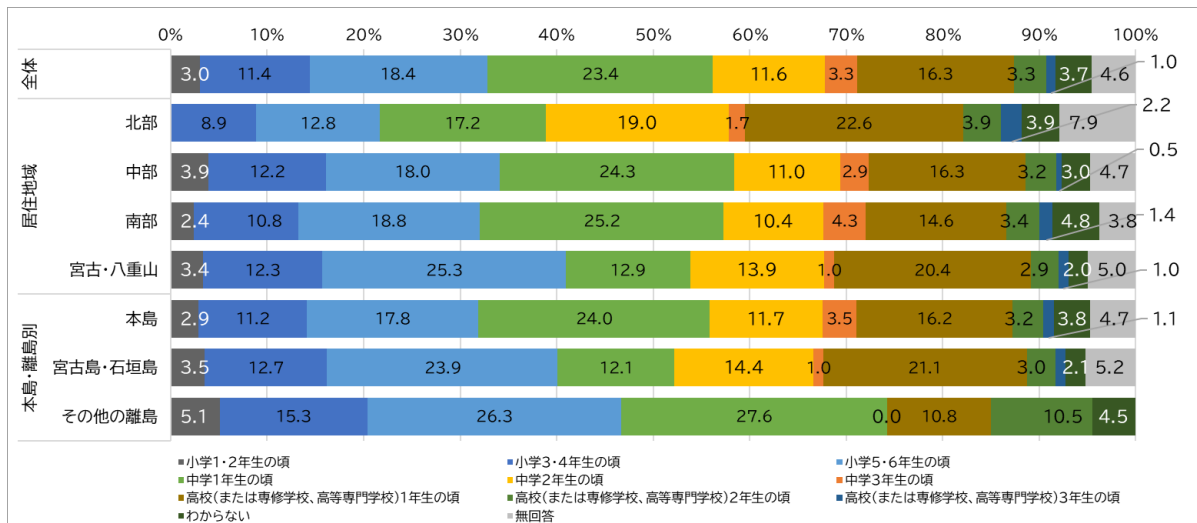
図表 72 孤独だと感じるか[問 5](10～17 歳)



【結果 3】授業が分からなくなる時期は地域によって異なった

授業がわからなくなった時期(問 16)(図表 73)について、小学 5・6 年生頃までの回答を合算した割合を居住地域別でみると、北部が 2 割程度、中部・南部が 3 割程度、宮古・八重山が 4 割程度であり、地域によって異なった。

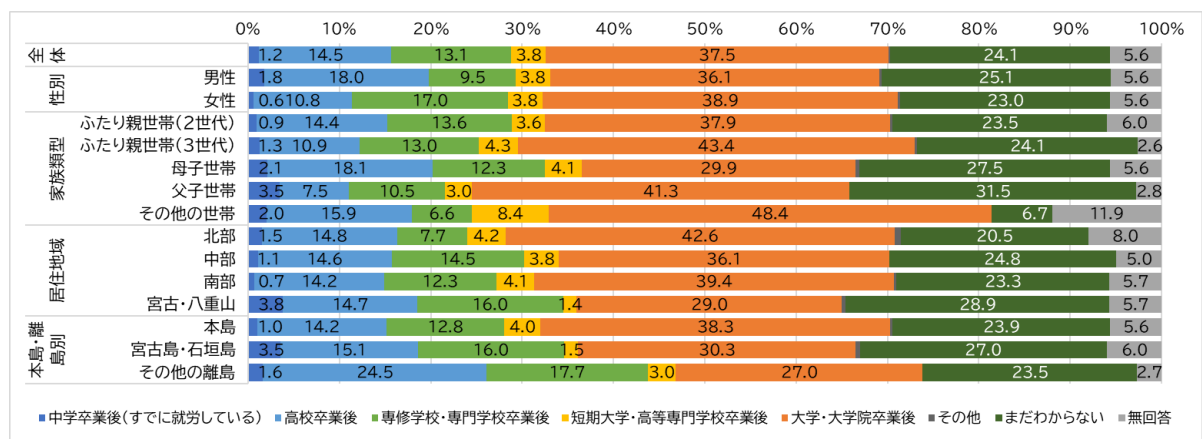
図表 73 授業がわからなくなった時期[問 16](10～17 歳)



【結果 4】社会に出る時期は、性別・家族類型・居住地域で特色が異なった

いつから社会に出て働くか(問 17)(図表 74)では、性別でみると「大学・大学院卒業後」の回答割合は差がみられないが、「高校卒業後」は男性の方が女性より 7.2 ポイント高く、「専修学校・専門学校卒業後」は女性の方が男性より 7.5 ポイント高かった。家族類型でみると、「大学・大学院卒業後」の回答割合は、ふたり親世帯(3 世代)の方がふたり親世帯(2 世代)より 5.5 ポイント高く、母子世帯では他の家族類型より「高校卒業後」の回答割合が高かった。居住地域別にみると「大学・大学院卒業後」の回答割合は、北部が高く 4 割以上であった。本島・離島別にみると、宮古島・石垣島やその他の離島は 3 割程度であった。

図表 74 いつから社会に出て働くか[問 17](10～17 歳)

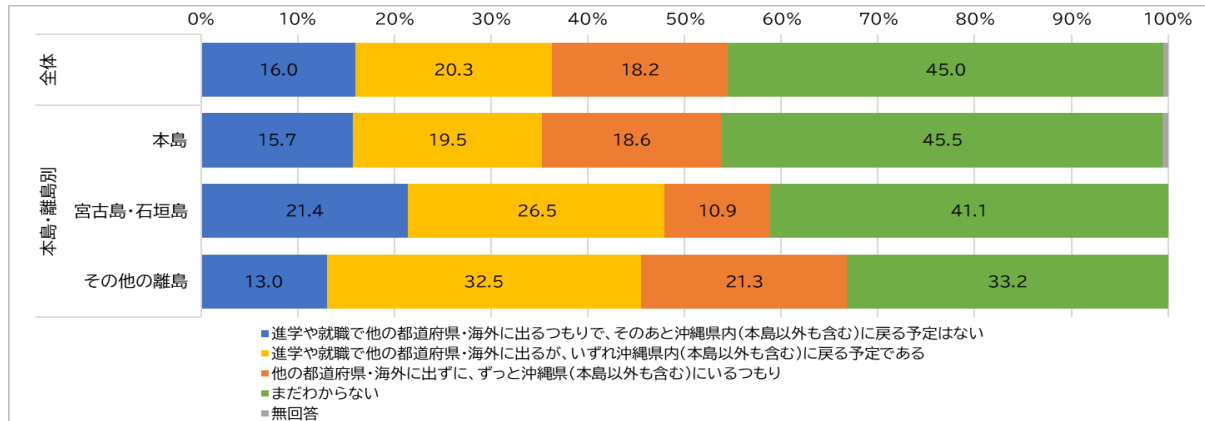


【結果 5】沖縄の転出意向は離島で高いが、半数以上は沖縄に戻る予定

進学や就職で沖縄県外に出るつもりか(問 18)(図表 75)を本島・離島別にみると、「沖縄県外に出る(「戻る予定はない」・「戻る予定である」の合算)」の回答割合は、本島(35.2%)よりも、宮古島・石垣島(47.9%)、その他の離島(45.5%)で高くなっているが、本島・離島共に、その半数以上の割合が「沖縄県内に戻る予定」であった。一方で、「沖縄県内に戻る予定はない」の回答割合は、宮古島・石垣島で

2 割程度であった。「ずっと沖縄県にいる」の回答割合は、本島が 18.6%、宮古島・石垣島が 10.9%、その他の離島が 21.3%であった。

図表 75 沖縄の転出意向[問 18](10～17 歳)

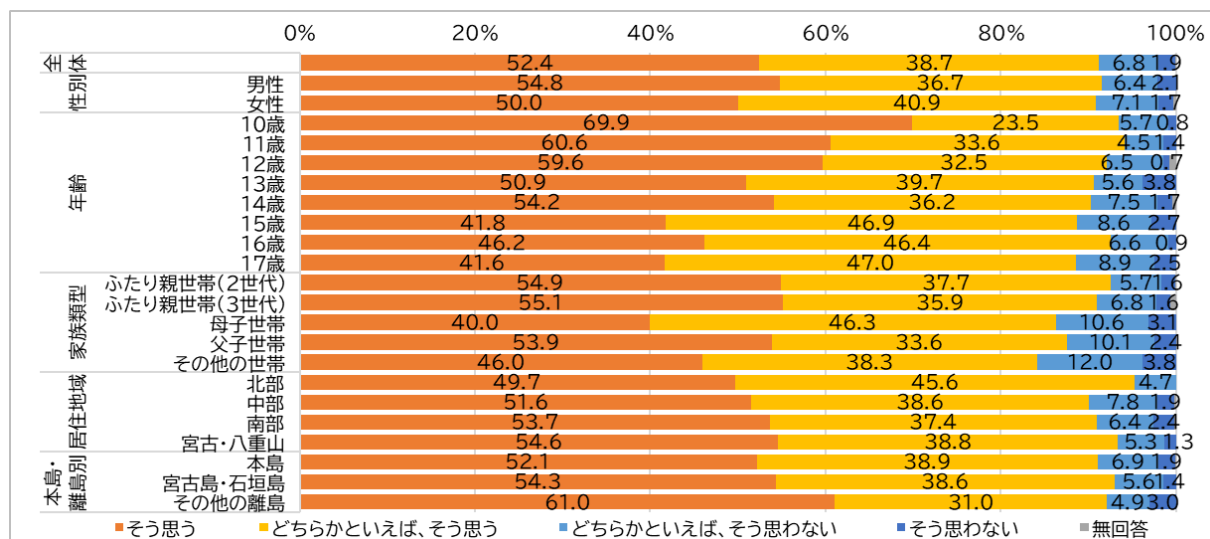


また、アンケートの調査項目のうち独自の設問(図表 53 参照)は、属性の設問(F5)を除くと、問 3、問 18、問 22 の 3 問であり、問 3 については集計の結果を掲載する(図表 76)。なお、問 18 は【結果 5】と同じであるため、集計の属性を限定せずに示した図表のみを掲載する(図表 77)。問 22 については 2.3.1 (3)3)で結果を示す。

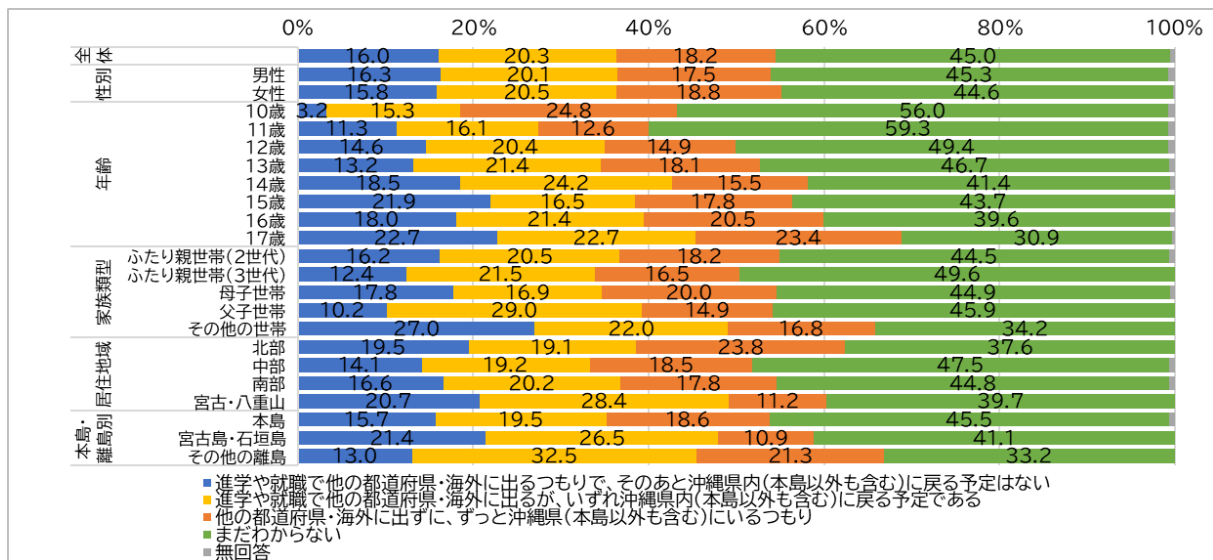
【結果 6】こどもからみた親の幸福感は高い

自分の親(保護者)が幸せだと思うか(問 3)(図表 76)では、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合算した回答割合は、いずれの属性でも 9 割程度であった。居住地域別にみると、北部(95.3%)が最も高く、宮古・八重山(93.4%)、南部(91.1%)、中部(90.2%)であった。

図表 76 こどもからみた親の幸福感[問 3](10～17 歳)



図表 77 沖縄の転出意向[問 18](10～17 歳)(属性すべて)



b. 既存調査との全国比較

こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」と共通の設問を用いた設問(図表 53 参照)を対象とした集計のうち、代表的な結果を掲載する。

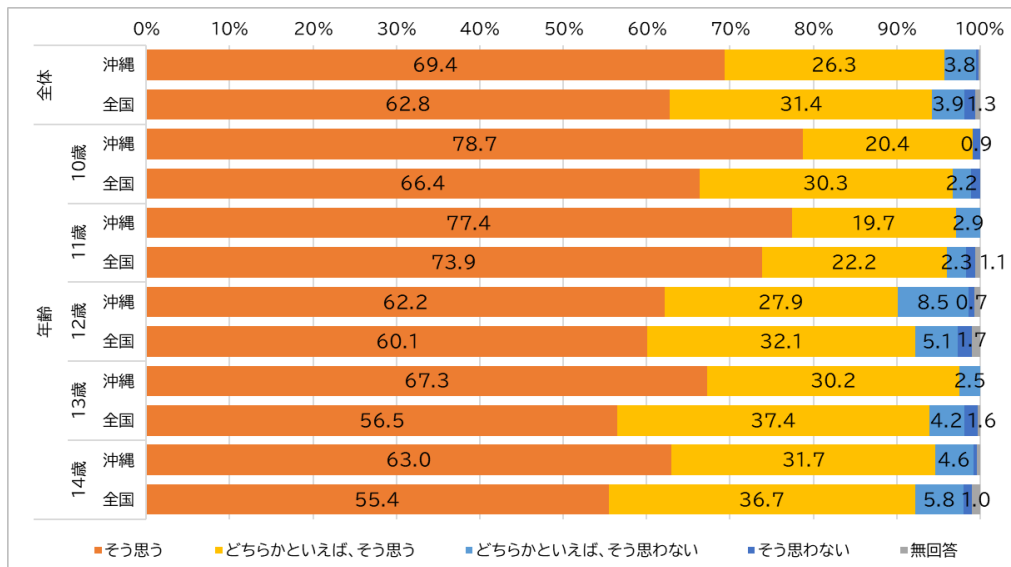
【結果】沖縄のこどもは幸福度が高いが、10～14 歳では孤独感も高かった

自分が幸せだと思うか(問 2)(図表 78、図表 79)では、「そう思う」の回答割合は、10～14 歳集計・15～17 歳集計全ての属性で、沖縄県が全国を上回った。特に 10 歳では、沖縄県が 78.7%、全国が 66.4%であり、沖縄県の方が 12.3 ポイント高かった。

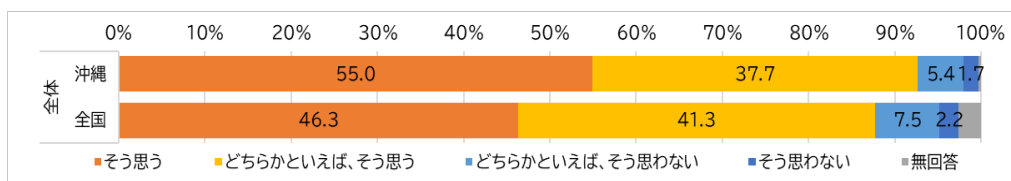
さらに、全国と比較すると、沖縄県は今の自分が好きだ(問 1 ア)(図表 80)、親から愛されていると思う(問 1 イ)(図表 81)、うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む(問 1 ウ)(図表 82)の「あてはまる」の回答割合が高かった。一方、自分が役に立たないと強く感じる(問 1 エ)(図表 83)の「あてはまる」の回答割合は低かった。ただし、自分が役に立たないと強く感じる(問 1 エ)(図表 83)の 10～14 歳集計のうち 13 歳では、「あてはまる」の回答割合が沖縄県 9.3%、全国 6.1%であり、沖縄県の方が 3.2 ポイント大きかった。

また、孤独だと感じるか(問 5)(図表 84)では、10～14 歳集計の全体で、「たまにある」・「時々ある」・「しばしばある・いつもある」を合算した割合は、沖縄県が 29.6%、全国が 23.5%で、沖縄の方が 6.1 ポイント高かった。特に、10 歳・11 歳で沖縄県の方が 10 ポイント以上高かった。なお、15～17 歳集計の孤独感(図表 85)では、「たまにある」・「時々ある」・「しばしばある・いつもある」を合算した割合は、沖縄が 42.3%、全国が 44.6%で、沖縄県の方が全国より 2.3 ポイント低く、10～14 歳集計とは逆に孤独感が比較的低かった。

図表 78 自分が幸せだと思うか[問 2](10～14 歳、全国比較)

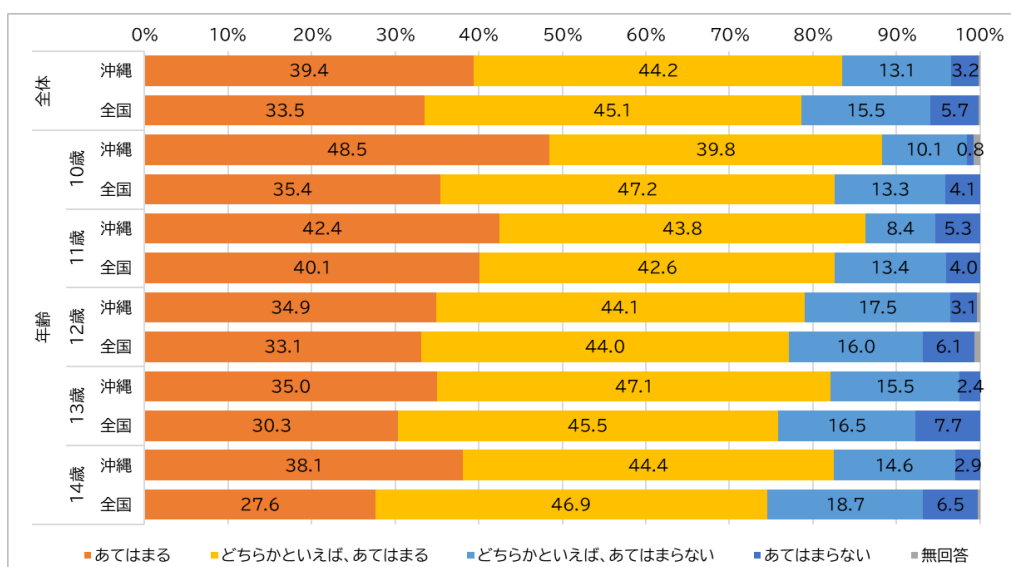


図表 79 自分が幸せだと思うか[問 2](15～17 歳、全国比較)

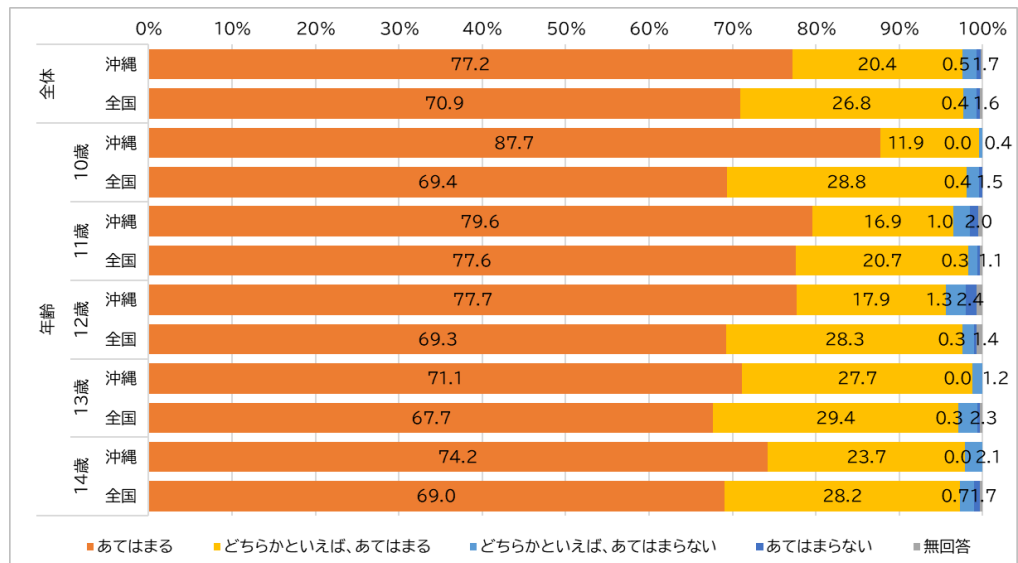


※ こども家庭庁の調査は、3 種類の調査(10 歳～14 歳対象調査、15 歳～39 歳対象調査、40 歳～69 歳対象調査)で構成される。それぞれの調査で集計が分かれており、15 歳～39 歳対象調査については年齢別集計のうち 15～19 歳の結果と比較を行った。

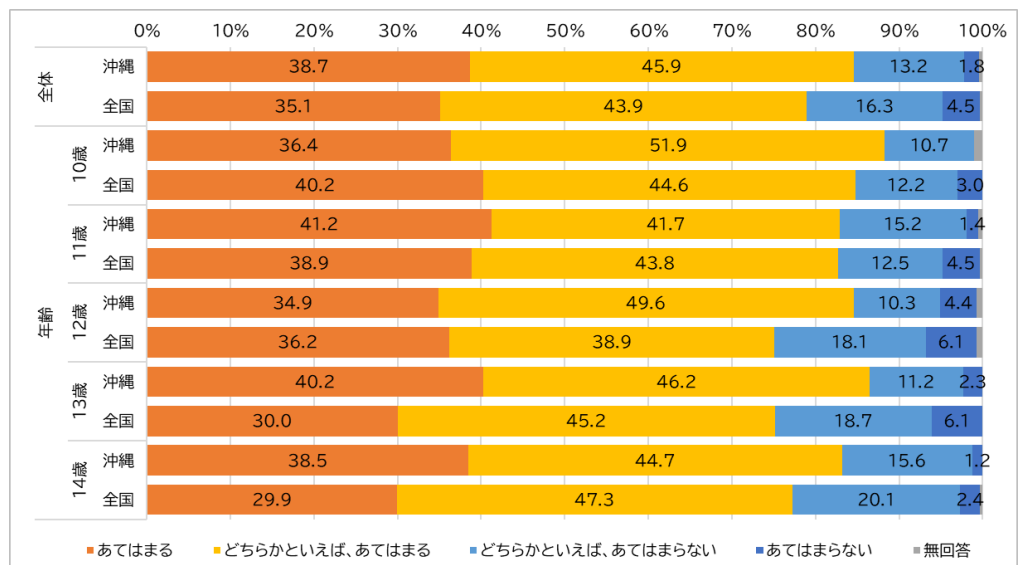
図表 80 今の自分が好きだ[問 1 ア](10～14 歳、全国比較)



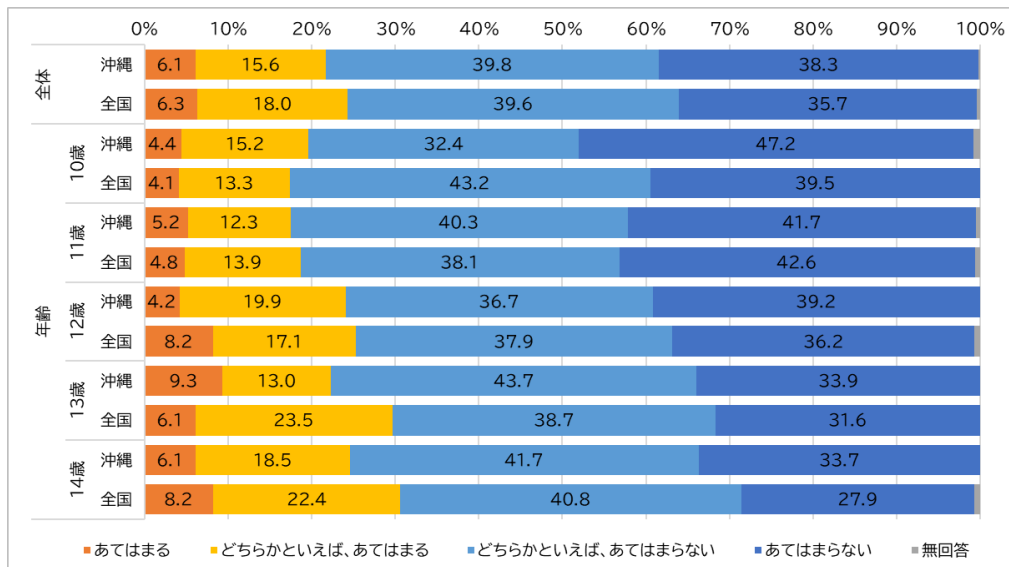
図表 81 親から愛されていると思う[問 1 イ](10～14 歳、全国比較)



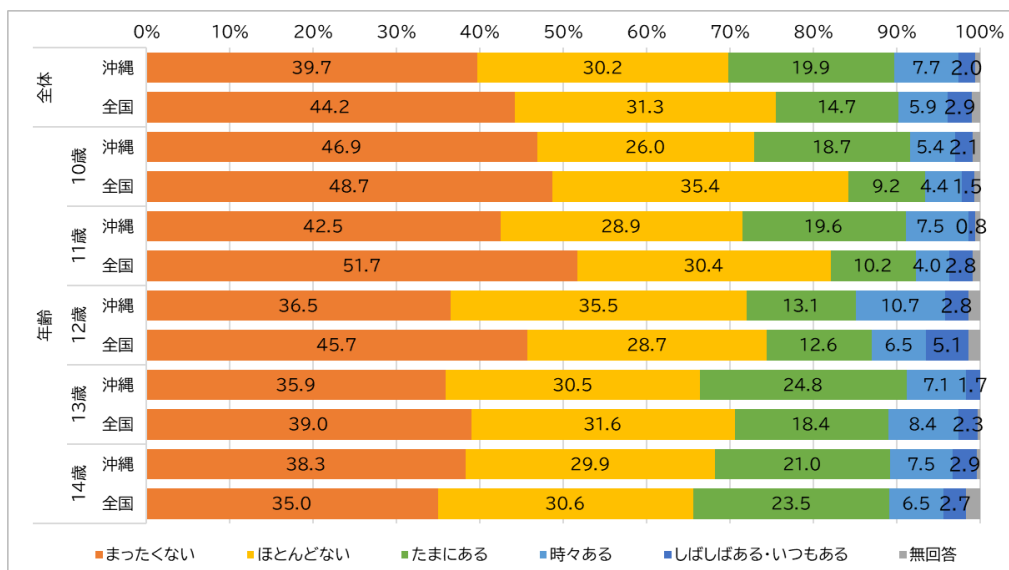
図表 82 うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む[問 1 ウ](10～14 歳、全国比較)



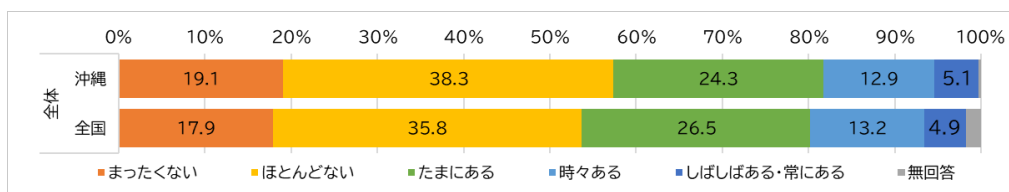
図表 83 自分が役に立たないと強く感じる[問 1 エ](10～14 歳、全国比較)



図表 84 孤独だと感じるか[問 5](10～14 歳、全国比較)



図表 85 孤独だと感じるか[問 5](15～17 歳、全国比較)



※ こども家庭庁の調査は、3 種類の調査(10 歳～14 歳対象調査、15 歳～39 歳対象調査、40 歳～69 歳対象調査)で構成される。それぞれの調査で集計が分かれており、15 歳～39 歳対象調査については年齢別集計のうち 15～19 歳の結果と比較を行った。

2) 客観的要素の把握・分析

沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の関係を把握・分析するため、アンケート調査における、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の設問の結果データ(ウェイトバック後)を用いて、相関係数を算出することにより分析した。

分析に用いた客観的要素の設問と主観的要素の設問は図表 86 のとおりである。このとき、客観的要素の設問及び主観的要素の設問は、相関分析ができるように、データを加工している。

具体的には、客観的要素の設問では、「居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数」(問 4)は、ア～オの項目うち「そう思う」または「どちらかと言えば、そう思う」を選択した項目数をカウント(0 個～5 個)した。「所有しないものの数」(問 20)は、10～14 歳票の場合はア～スの項目のうち「ない(ほしい)」、また 15～17 歳の場合はア～セの項目のうち「持ちたいが持っていない(やりたいができない)」を選択した項目数をカウントして集約(0 個、1 個、2 個、3 個、4 個、5 個以上)した。

主観的幸福度の設問では、「幸福度」(問 2)は、「そう思う」～「そう思わない」を順に 4 点～1 点に割り当て、点数化した。「孤独感」(問 5)は、孤独を感じることが「まったくない」ほど主観的要素がよい評価になるように、「しばしばある・いつもある」～「まったくない」を順に 1 点～5 点に割り当て、点数化した。

図表 86 分析に使用した客観的要素・主観的要素の設問

設問の種類	概要(設問番号)
客観的要素	年齢(F2)、居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数(問 4)、生活時間(問 10)、所有しないものの数(問 20)
主観的要素	幸福度(問 2、問 21)、生活満足度(問 21)、孤独感(問 5)

加えて、客観的要素と主観的要素で設問間のクロス集計を行うことで、具体的な関係性を確認した。

a. 相関係数での分析

分析対象の客観的要素と主観的要素の設問との関係性を相関係数で確認したところ、主観的要素の各設問と「居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数」は相関係数が 0.3 程度であり、弱い正の相関が見られた(図表 87)。

図表 87 客観的要素と主観的要素との相関係数

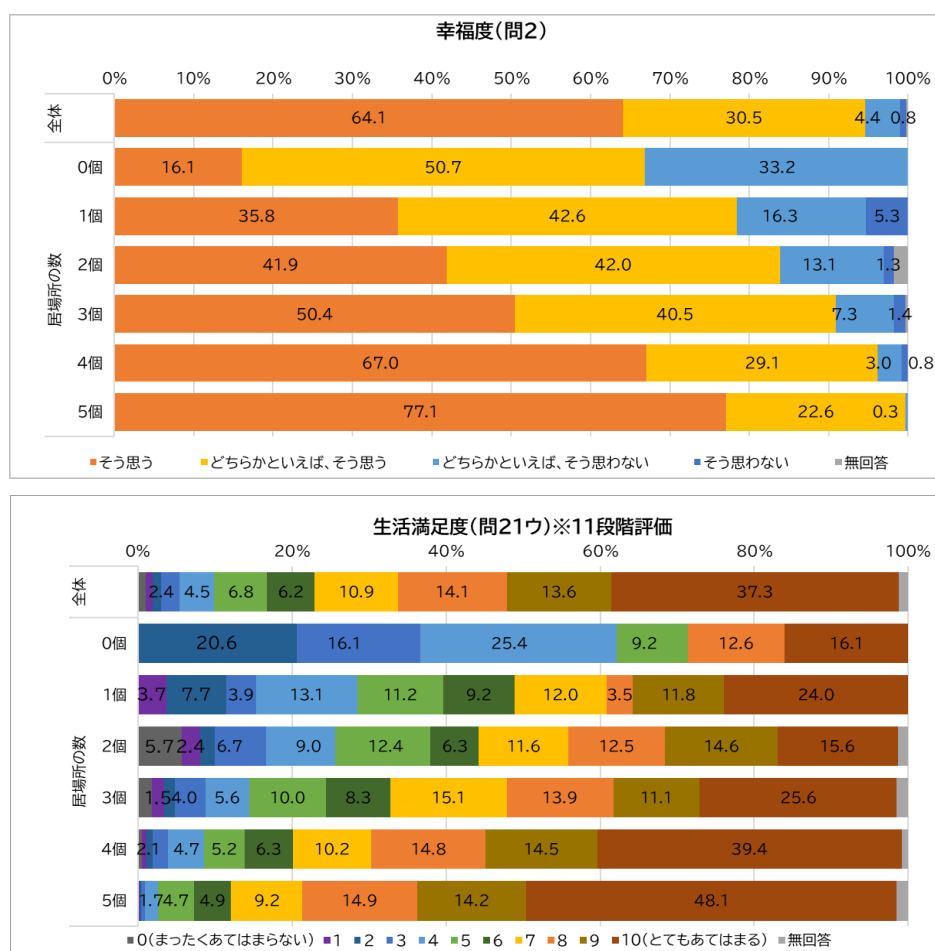
設問		問2)幸福度 (4段階評価)	問21イ)幸福度 (11段階評価)	問21ウ)生活満足度 (11段階評価)	問5)孤独感 (5段階評価)
	主観/客観	主観	主観	主観	主観
F2)年齢	客観	-0.17	-0.16	-0.17	-0.21
問4)居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数	客観	0.32	0.35	0.34	0.26
問10)生活時間:ア)ゲームをする	客観	-0.06	-0.06	-0.03	0.00
問10)生活時間:イ)SNS閲覧・書き込み	客観	-0.14	-0.10	-0.11	-0.16
問10)生活時間:ウ)テレビや動画視聴	客観	-0.11	-0.10	-0.12	-0.14
問10)生活時間:エ)勉強	客観	0.06	0.05	0.04	-0.01
問10)生活時間:オ)家事	客観	-0.01	0.02	-0.02	-0.06
問10)生活時間:カ)家族の介護・看病・世話	客観	0.05	0.04	0.05	0.01
問20)所有しないものの数	客観	-0.17	-0.17	-0.21	-0.11

※ 分析対象の設問において 1 つでも無回答があるサンプルは削除し、対象の全設問で回答しているサンプルのみで分析した(全 1,735 サンプルのうち 1,649 サンプル(95.0%)対象)

b. クロス集計での分析

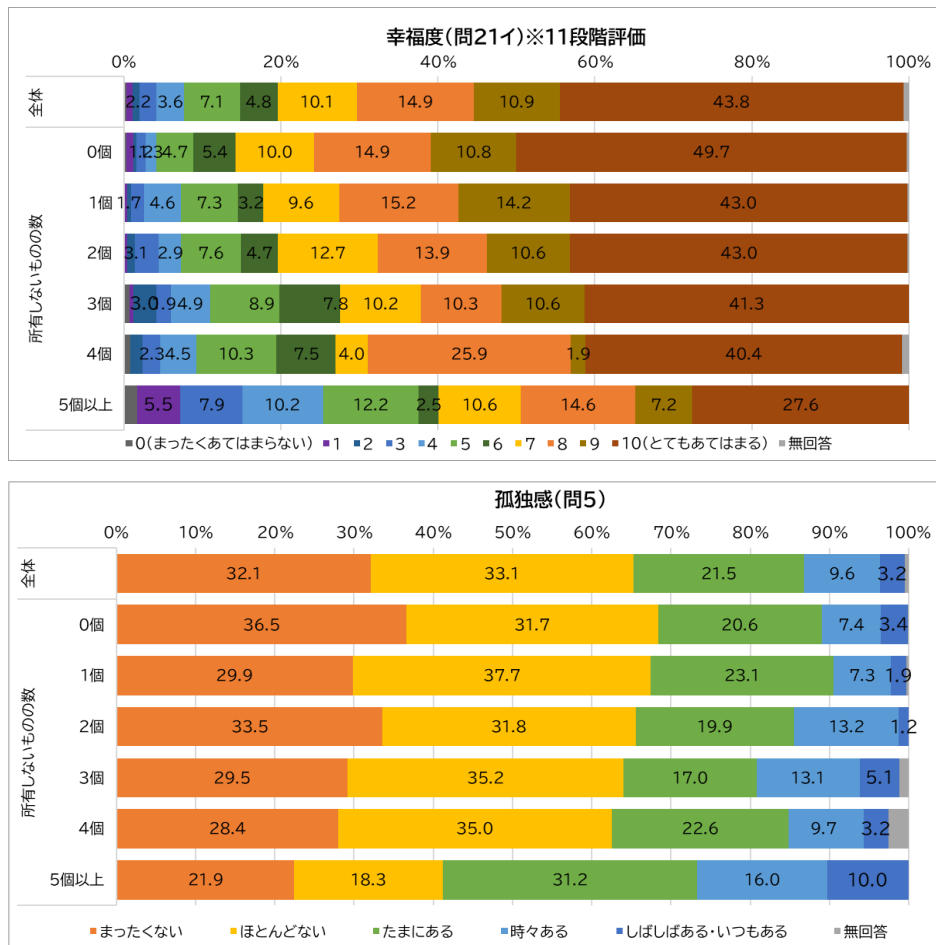
クロス集計を行い、関係性を確認しても、居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数が増加すると、幸福度で「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合算した割合や、生活満足度で 11 段階評価の 8～10 を合算した割合といった良い評価の割合も高かった(図表 88)。

図表 88 居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)の数と主観的要素の各設問のクロス集計結果



また、所有しないものの数と主観的要素の各設問についてクロス集計でみると、幸福度とのクロス集計では、11 段階評価の 8～10 を合算した割合が、所有しないものの数が 4 個の場合は 68.1%、5 個以上の場合は 49.4%で、18.7 ポイント低かった。また、孤独感とのクロス集計では、「まったくない」「ほとんどない」を合算した割合が、所有しないものの数が 4 個の場合は 63.4%、5 個以上の場合は 40.2%で、23.2 ポイント低かった。ただし、所有しないものの数が 5 個以上の回答者数は全体の 5%程と少数であることには留意が必要である。(図表 89)。

図表 89 所有しないものの数と主観的要素の各設問のクロス集計結果



3) 自由記述回答分析

アンケートでは、沖縄のこどものウェルビーイングに対する親(保護者)からの影響を検討する情報と
するため、自由記述として問 22「あなたは親(保護者)からしてもらったことで嬉しかった・楽しかったこ
とはどんなことですか。思い浮かぶことやエピソードを、自由に、いくつでも書いてください。」という設問
を設定した。回答された内容をカテゴリー化し、分析した。

分析では、自由記述を 9 カテゴリーに分類²⁴し、さらに 5 つの大項目に大別した。分類と、代表的な
回答は図表 90 のとおりである。

図表 90 自由記述回答の分類

大項目	カテゴリー	説明	代表的な例(実際の回答から全文を抜粋)
A.体験提供	1.家族での旅行・外出に関する意見	旅行、遠出、一緒に遊ぶ	家族みんなで大坂に旅行に行ったこと！/家族みんなでゲームをしたこと。みんな(家族)で私が好きなスポーツダンスを踊ってくれたこと。みんな(家族)でちるぐわーに行ったこと。みんな(家族)で公園に行って自転車に乗ったこと。/映画を見に行ったこと。ディズニーに行ったこと。
	2.家族との食事に関する意見	日常的な食事、外食	テストとか部活でがんばった日には焼肉を食べる。/一緒にご飯を食べる時。/外食に連れて行ってくれたこと。
	3.誕生日やサプライズの行事・お祝いに関する意見	誕生日のお祝い、サプライズ	毎年、誕生日を祝ってくれること。/ホテルにお泊まりのサプライズされたこと。
B.精神的な支え	4.意見の尊重・感情的な支えに関する意見	意見の尊重、後押し、褒める、叱る、寄り添う、慰める	いつでも味方よ、といってくれたこと。/部活でうまくいかなかった時ほめてくれた。やりたいことをやらせてくれている。/自分のやりたい事をおうえんしてもらえるところ。自分の夢を、肯定してくれること。/たまには厳しく叱ってくれたこと。
	5.学業や試験の成果を褒められたことに関する意見	学業成績への称賛、検定・受験の獲得への称賛	そろばんや漢検合格したときに一緒によろこんでくれた。/テストで良い点を取ったときにほめてもらったこと。/習い事で賞をとったときたくさんほめられてうれしかった。/テストの点数や順位を褒められたこと。/高校合格の時褒めてくれた。
C.物質提供	6.欲しかった物・ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見	欲しかった玩具・電子機器をもらう、ペットを飼う、小遣い	ゲームかってもらった。/犬を飼うことができた。/欲しい物を買ってもらったこと。スマホを買ってもらった。/ほしかったものを買ってもらったとき。/成績がよかったからおこづかいをもらった。/ゲーム機を買ってもらったこと。/インコを飼ってもらったこと。
D.活動支援	7.習い事や部活動等の支援に関する意見	部活動の応援、習い事をさせてもらう、用具の購入、送迎	野球の試合で活やくしたときに、笑ってほめてくれること！！部活の時に、全力でサポートしてくれるところ！！/部活の応援にきてもらった。部活のときお弁当を準備してもらった。/部活で使うものを買ってもらったり大会派遣に行かせてもらったことです。/習字や英語教室など色々やらせてくれた。
	8.日常的な世話・送迎・勉強のサポートに関する意見	日常的な世話や学校への送迎、学校の宿題を見もらう	いつも学校や遊びに行く時に送り迎えしてくれる。/熱が出た時に看病してくれたこと。/いつも守ってくれる事。病気などで入院した時も付き添ってくれる事。具合が悪くて早退する時すぐ迎えに来てくれる事。/毎日の弁当作りや送迎。/受験のサポート。
E.その他	9.その他	(その他)	お母さんが頑張って、自分を産んでくれたことがうれしかった。/全部楽しいし嬉しい。

※ 「/」は 1 人当たりのコメントの区切り

まず、9 カテゴリーで回答内容を集計した結果(図表 91)、小学生では、「1.家族での旅行・外出に関する意見」(45%)、「6.欲しかった物・ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見」(35%)の回答割合が高かった。中学生では、「1.家族での旅行・外出に関する意見」(33%)、「4.意見の尊重・感情的な支えに関する意見」(22%)、「6.欲しかった物・ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見」(22%)、高校生相当では、「1.家族での旅行・外出に関する意見」(25%)、「4.意見の尊重・感情的な支えに関する意見」(23%)の回答割合が高かった。

²⁴ 分類は一部 LLM モデル(大規模言語モデル)で自動化し、その結果を確認して統合・分類した。一つの回答欄に複数の回答が可能であるため、同一回答に複数の文章や要素が含まれ、複数のカテゴリーに分類されるものもある。

次に、性別で見た場合、女性では、「1.家族での旅行・外出に関する意見」(41%)、「4.意見の尊重・感情的な支えに関する意見」(28%)、男性では、「1.家族での旅行・外出に関する意見」(23%)、「6.欲しかった物・ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見」(19%)の回答が高かった。ただし、問22の回答自体、男性は無回答が多く女性の回答が多い点は留意が必要である。

また、本島・離島別で見た場合、「6.欲しかった物・ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見」は本島で21%、宮古島・石垣島で21%、その他の離島で28%であった。

図表 91 9 カテゴリーでの分析結果

		大項目	A体験提供	体験提供	体験提供	B精神的な支え	B精神的な支え	C物質提供	D活動支援	D活動支援	Eその他	-
		カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	-
		名称	家族での旅行・外出に関する意見	家族との食事に関する意見	誕生日やサプライズの行事・お祝いに関する意見	意見の尊重・感情的な支えに関する意見	学業や試験の成果を褒められたことに関する意見	欲しかった物、ペット等のプレゼントやお小遣いに関する意見	習い事や部活動等の支援に関する意見	日常的な世話・送迎・勉強のサポートに関する意見	その他	無回答
属性	属性種類	サンプル(n=)	563	185	97	372	93	366	181	119	20	613
男女%	男	828	23%	7%	4%	14%	4%	19%	12%	6%	1%	42%
	女	893	41%	14%	7%	28%	7%	23%	9%	8%	1%	29%
	その他	24	29%	8%	4%	21%	0%	13%	13%	8%	0%	46%
年齢%	10歳	129	55%	10%	8%	13%	6%	36%	13%	12%	1%	21%
	11歳	252	40%	12%	6%	21%	3%	34%	15%	7%	1%	27%
	12歳	152	38%	9%	4%	27%	10%	24%	14%	5%	2%	30%
	13歳	196	39%	11%	5%	20%	7%	19%	15%	6%	0%	31%
	14歳	258	27%	10%	7%	20%	7%	22%	10%	7%	1%	38%
	15歳	161	26%	9%	5%	23%	8%	16%	9%	8%	0%	32%
	16歳	221	29%	10%	6%	21%	4%	14%	7%	6%	2%	42%
	17歳	366	23%	11%	5%	24%	3%	12%	5%	6%	2%	46%
家族類型%	ふたり親世帯(2世代)	1205	32%	11%	5%	21%	6%	21%	11%	7%	1%	35%
	ふたり親世帯(3世代)	187	35%	10%	7%	22%	4%	21%	11%	7%	2%	35%
	母子世帯	270	35%	10%	6%	20%	4%	21%	7%	7%	1%	37%
	父子世帯	40	25%	10%	0%	25%	3%	20%	8%	10%	0%	35%
	その他の世帯	33	24%	12%	6%	24%	9%	9%	3%	6%	3%	30%
居住地域%	北部	127	27%	13%	6%	17%	3%	24%	13%	5%	2%	34%
	中部	713	33%	11%	5%	23%	7%	21%	10%	6%	1%	34%
	南部	682	32%	9%	5%	20%	5%	21%	10%	9%	1%	37%
	宮古・八重山	210	34%	11%	9%	23%	5%	22%	12%	5%	2%	34%
	その他	3	0%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
本島・離島%	本島	1495	32%	11%	5%	21%	5%	21%	10%	7%	1%	36%
	宮古島・石垣島	198	33%	12%	9%	22%	6%	21%	12%	6%	3%	34%
	その他の離島	39	31%	8%	5%	23%	0%	28%	13%	0%	5%	36%
	その他	3	0%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
学齢%	小学生	381	45%	12%	7%	18%	4%	35%	14%	8%	1%	25%
	中学生	606	33%	10%	5%	22%	8%	22%	13%	6%	1%	34%
	高校生相当	748	29%	11%	5%	23%	4%	14%	7%	7%	1%	42%

※ 居住地域%及び本島・離島%の回答割合はデータバー(青色)を非表示。学齢は、年齢が10～11歳を「小学生」、12～14歳を「中学生」、15～17歳を「高校生相当」として集計。

同様に、5つの大項目で集計した結果が図表92である。学齢別では、小学生は「A.体験提供」(50%)、「C.物質提供」(35%)と回答した割合が高く、中学生・高校生相当では「A.体験提供」(中学生39%、高校生相当31%)、「B.精神的な支え」(中学生27%、高校生相当26%)と回答した割合が高かった。性別では、女性は「A.体験提供」(47%)、「B.精神的な支え」(34%)と回答した割合が高く、男性は「A.体験提供」(29%)、「C.物質提供」(19%)と回答した割合が高かった。

図表 92 5大項目での分析結果

		大項目	A	B	C	D	E	
		体験提供	精神的な支え	物質提供	活動支援	その他	無回答	
		名称						
属性	属性種類	サンプル(n=)	663	441	366	281	20	613
男女%	男	828	29%	17%	19%	16%	1%	42%
	女	883	47%	34%	23%	16%	1%	29%
	その他	24	33%	21%	13%	17%	0%	46%
年齢%	10歳	129	58%	18%	36%	25%	1%	21%
	11歳	252	46%	23%	34%	19%	1%	27%
	12歳	152	40%	34%	24%	19%	2%	30%
	13歳	196	45%	24%	19%	18%	0%	31%
	14歳	258	34%	26%	22%	17%	1%	38%
	15歳	161	34%	29%	16%	17%	0%	32%
	16歳	221	34%	24%	14%	12%	2%	42%
	17歳	366	29%	26%	12%	11%	2%	46%
家族類型%	ふたり親世帯(2世代)	1205	38%	26%	21%	17%	1%	35%
	ふたり親世帯(3世代)	187	41%	25%	21%	18%	2%	35%
	母子世帯	270	39%	23%	21%	13%	1%	37%
	父子世帯	40	33%	28%	20%	13%	0%	35%
	その他の世帯	33	36%	33%	9%	9%	3%	30%
居住地域%	北部	127	34%	19%	24%	16%	2%	34%
	中部	713	39%	28%	21%	15%	1%	34%
	南部	682	38%	23%	21%	17%	1%	37%
	宮古・八重山	210	41%	27%	22%	17%	2%	34%
	その他	3	0%	67%	0%	0%	0%	33%
本島・離島%	本島	1495	38%	25%	21%	16%	1%	36%
	宮古島・石垣島	198	41%	26%	21%	16%	3%	34%
	その他の離島	39	38%	23%	28%	13%	5%	36%
	その他	3	0%	67%	0%	0%	0%	33%
学齢%	小学生	381	50%	22%	35%	21%	1%	25%
	中学生	606	39%	27%	22%	18%	1%	34%
	高校生相当	748	31%	26%	14%	12%	1%	42%

※ 居住地域%及び本島・離島%の回答割合はデータバー(青色)を非表示。学齢は、年齢が10～11歳を「小学生」、12～14歳を「中学生」、15～17歳を「高校生相当」として集計。

2.3.2 沖縄のこどもの主観的要素等に関するヒアリング調査

沖縄県のこどもの主観的要素に関するアンケート調査の結果について、結果に対する解釈や考えられる要因として、文献調査やアンケートデータの分析では把握しきれない詳細な情報やその背景(歴史的・文化的・地理的背景等)を把握することを目的として、沖縄のこどもの行動や心理に関する有識者へのヒアリングを実施した(図表 93)。

図表 93 ヒアリング調査(沖縄のこどもの主観的要素等)の概要

対象者	学識者 4名
実施期間	2025年11月
質問内容の概要	1. アンケートデータの分析結果に対する解釈、意見 2. 今後の調査・分析に向けた改善点

具体的なヒアリングの結果は図表 94 のとおりである。有識者からは、今回のアンケート調査の結果について、沖縄県や他県のこどものウェルビーイングに関する既存調査の結果と同様の傾向がみられたという意見があった。また、個別ヒアリング等で深掘りすべき点(全国と比べて沖縄のこどもの幸福度が高い理由、「悩みや困りごとなどを相談できる場所」の認知度、居場所に関して「インターネット空間」の回答がなぜ多いか、10～14歳の孤独感がなぜ高いか)、今回の集計結果の追加的な分析の必要性(集計に関する統計検定、沖縄県と人口規模が同程度の地域や離島が多い地域との比較、沖縄の世帯構成比に合わせた集計・分析)、設問文にある用語の見直しについての指摘を得た。

なお、前述した、全国と比べて沖縄のこどもの幸福度が高い理由についての深掘は、こども・若者意見交換会(2.4)にて試みた。その他の深掘や追加的な分析、用語の見直しは、来年度以降において実施や改善を行うことが想定される。

図表 94 ヒアリング調査(沖縄のこどもの主観的要素等)の結果概要

ヒアリング対象者(敬称略)・ヒアリング概要	
沖縄大学 名誉教授 島村 聡 ※協議体構成員	
● 「悩みや困りごとなどを相談できる場所」の認知度が沖縄ではいずれの属性でも全国より低いのは不思議な結果。こども達の質問の受け止め方(何を連想するか)が全国と異なるのではない。 ● 居場所の回答で、沖縄では「インターネット空間」の割合が全国と比べて異常に大きく、深掘してみたい。 ● 自己肯定感だけでなく、自己効力感の要素も注目した方がよい。 ● 孤独感の結果についてどう解釈するかは難しいところがあり、判断が必要かもしれない。 ● 全体(10～17歳)のまとめの考察に不自然さはない。例えば、離島は本島よりこどもの元気さが一回り違う。 ● こどもにとって、祖父母がいることと親がいない寂しさは別だろう。この点は重要だと考える。 ● 孤独感と居場所の数のクロス集計等、興味深い点を拾っているが、今後も焦点を絞ってもっと深掘すべき。 ● 10～14歳の孤独感がなぜ高いかは今一つ分かっていないため、追究すべき点の一つである。今後はアンケート調査の改善というより、個別ヒアリングを重ねることが一番のポイントではないか。 ● 自身の研究であることもあるが、どのような居場所がよいのかという議論に持っていきたい。 ● こども本人だけでなくこどもに直接接する人達のマンパワーも、目を向けるべき重要なテーマだと考える。 ● 苦しい状況で引きこもっているようなこどもにはインタビューできていないこともあり、実態把握が難しい。	
琉球大学 おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター 特命講師 糸数 温子	
● 分析結果において、サンプルサイズや有意性指標が十分に示されておらず、結果は主にグラフによって提示されているため、妥当性を評価できない。使用した統計手法、母数、検定の有無およびその結果を明示するとともに、有意差が認められない結果についてもその旨を明示する必要がある。 ● 「居場所の数」と記載があるが、こども家庭庁の調査・報告書では「安心できる場所の数」との見出しとなっており、合わせた方がよい。沖縄県では居場所事業という事業を実施しており、その事業における「居場所」と混同し誤解を生む可能性がある。 ● 今後の調査としては、こども家庭庁調査の個票データを取り寄せ、沖縄県と人口規模が同程度の都市との比較を行うことが考えられる。また、離島の多い地域(長崎県や愛媛県)のデータを取り比較するのもよい。	
立教大学 社会情報教育研究センター 助教 池田 岳大	
● 主観的幸福度に関するアンケートをこどもに実施した場合、どの調査でも主観的幸福度が高く出がちな傾向がある。こどもは、貧困等のマクロな視点ではなく、比較的狭い・単純な文脈(「学校が楽しい」、「友達と放課後遊ぶのが幸せ」等のあいまいな基準)で「幸せ」を判断しやすいという点を考慮して分析する必要がある。ひとり親世帯では、明確に主観的幸福度が低い。親の有無は、小さいこどものレベルでも明確な違いを認識しやすいため、沖縄のこどものウェルビーイングを分析する際には、世帯構成という視点を入れて議論すべき。 ● 問 17「あなたは将来、いつから社会に出て働こうと考えていますか」という設問の結果は、教育社会学会にて東大チームが発表していた東京 23 区中学生の結果と比較しても、傾向は変わらない印象。本島と離島では、大学の有無が影響しているのではない。学力差というよりも、大学生と接する機会や大学を見る機会などによる「大学生」へのイメージの有無が、漠然とした進路形成に結びついているのではない。 ● 頼れる知り合いの数という観点で分析をすることで、主観的幸福度の向上や孤独感の解消につながる、といったストーリーができるのではない。 ● 調査形式が工夫できるのであれば、親の収入の問題などの客観的要素が取り入れられるとよい。	
公立大学法人名桜大学 教授・学科長 小川 寿美子 ※協議体構成員	
● 回収された調査票の世帯の種類(核家族、ひとり親世帯、三世帯家庭等)の割合が、沖縄県全体の世帯の種類割合と合致しているかを確認しておくほうがよい。 ● 問 4「次の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。」はこどものウェルビーイングを考えるうえで重要である。しかし居場所の数よりも、この居場所があれば安心できるという場所の質の方が重要なのだと考える。また現場からよく聞かれる「友達の家」という選択肢がないのが気になった。 ● 第 2 回協議体では、精神的な支えが課題ということが浮き彫りにされた。今回の結果にそれを裏打ちするようなデータはあるか。精神的なサポートが欲しいと思っているのはどのグループか、そこが今回の結果で明らかになれば政策的に支援がよりフォーカスできると考える。	

2.4 こども・若者意見交換会

(1) 実施目的・実施概要

こども基本法第 3 条では、こどもの意見表明の機会、こどもの社会的活動への参画機会の確保を基本理念として掲げている。そのため、沖縄のこどものウェルビーイングを把握するためには、こどもの意見の反映が必要であると考え。

本調査では、大人を介した意見だけではなく、主観的幸福度や意見聴取方法に関するこども・若者からの生の意見から、これまで協議体で確認してきた研究テーマの深掘りや、研究者・関係者への留意点を例示することを目的に、こどもの社会的活動への参画機会として「こども・若者意見交換会」を実施した。テーマは「(自分が)将来、幸せな生活を送るために、今、どのようなことが必要だと思うか。」「こどもか

ら意見(声)をもらうためにはどのような方法がよいか。」の 2 種類とし、テーマの中でもいくつかの質問を行った(図表 95)。

図表 95 こども・若者意見交換会のテーマ

	テーマ	詳細
1	(自分が)将来、幸せな生活を送るために、今、どのようなことが必要だと思うか。	- 中長期的にウェルビーイングな状態(身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態)にするために、今、どのようなことが必要かについて、こどもから意見を聴取する。将来を踏まえた聴き方をしても、教育などの長期的な視点での意見が出ない場合はその視点が無い状態であると判断し、今後の研究テーマ等の検討のための情報とする。 【若者世代】現状の内容に加え、こども時代を振り返って意見をもらう(あのときああすればよかった、こうしてほしかった、こうしたことがよかった等)。 - また、将来、沖縄県に居続けたいかを会話の流れの中で確認する。その理由も併せて把握する。沖縄県として魅力となっていること、課題となりうることを明確化し、今後の研究テーマ等の検討のための情報とする。
2	こどもから意見(声)をもらうためにはどのような方法がよいか。	研究体制の機能としてこどもからの意見を集めることが重要であるため、どのような方法・アプローチであればこどもたちからの意見を集めやすいかをこどもたちに確認し、検討できるようにする。

こども・若者意見交換会の実施概要(図表 96)及び当日の流れ(図表 97)や当日の会場配置(図表 98)を示す。

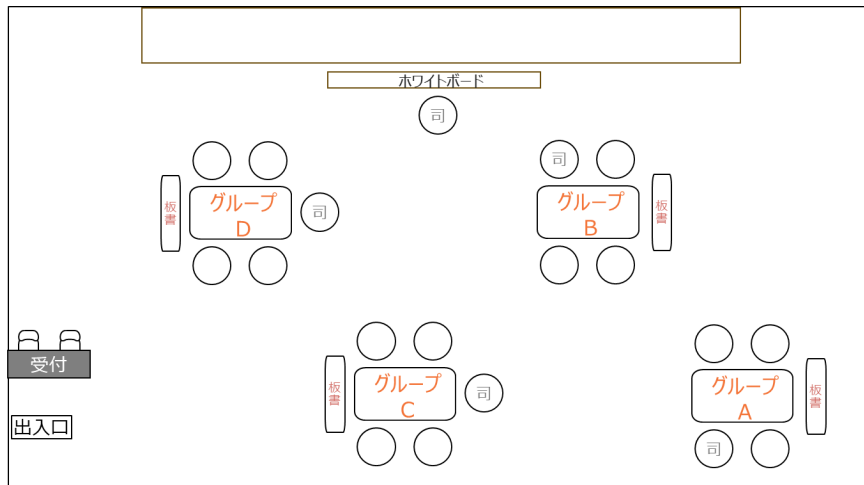
図表 96 こども・若者意見交換会の実施概要

実施日時/実施場所	2026 年 1 月 17 日(土)14:00~16:00/那覇市職員厚生会																																																					
対象者	9 歳~25 歳の 14 名(機縁法にてリクルーティング)。 ※今までの協議体での意見やテーマ案(こどもの長期的な成長の観点)等を踏まえ、18 歳以上(大学生、社会人)も対象に含める。 (グループ編成) <table border="1"> <tr> <th></th><th colspan="2">A グループ</th><th colspan="2">B グループ</th><th colspan="2">C グループ</th><th colspan="4">D グループ</th></tr> <tr> <td>学 齢</td><td colspan="2">小学生</td><td colspan="2">中学生</td><td colspan="2">高校生</td><td colspan="2">大学生</td><td colspan="2">社会人</td></tr> <tr> <td>性 別</td><td>男性</td><td>女性</td><td>男性</td><td>女性</td><td>男性</td><td>女性</td><td>男性</td><td>女性</td><td>男性</td><td>女性</td></tr> <tr> <td>人 数</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table>											A グループ		B グループ		C グループ		D グループ				学 齢	小学生		中学生		高校生		大学生		社会人		性 別	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	人 数	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1
	A グループ		B グループ		C グループ		D グループ																																															
学 齢	小学生		中学生		高校生		大学生		社会人																																													
性 別	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性																																												
人 数	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1																																												
実施内容	- 個々の意見が拾えるようグループ内で議論をし、その内容を全体で発表する方法を採った。 - また、議論がスムーズに実施できるように、各グループにファシリテーターと板書係を置いた。なお、意見交換にあたっては他の参加者の意見に影響を受けないよう、発言前に付箋へ記入してもらう等の方法を採った。																																																					

図表 97 こども・若者意見交換会の当日の流れ

14:00	開会	冒頭に関係者が挨拶を行います。
	今日の流れ・ルールの説明	全体の流れ、今日のルールの確認をします。
14:10	自己紹介・アイスブレイク	グループの中でお互いに自己紹介をします。
14:20	議論・発表・休憩	- 各グループの司会がいろいろな質問をするので、言える範囲で意見を言ってください。 - 各グループの司会が、グループごとに休憩の時間を連絡します。 - テーマは 2 つあります。テーマごとにグループで議論して、その後、各グループから他のグループに議論した内容を発表します。
15:50	全体振り返り 連絡事項・閉会	各グループから一言ずつ振り返りの言葉を全体に発表してもらいます。
16:00	解散	- 最後に、ご協力のお礼の図書カードをお配りします。 - 今回の内容をまとめた資料を後日、お送りします。

図表 98 当日の会場配置



(2) 主な意見

参加者のこども・若者への質問に対する回答を整理した。

a. 【テーマ 1】(自分が)将来、幸せな生活を送るために、今、どのようなことが必要だと思うか。

「あなたが思い描く将来の幸せな生活を送るために、今、どのようなことが必要だと思いますか」という質問に対して、将来幸せな生活を送るために現在必要な要素として、「お金」、「やりたいことができる環境」、「学力」、「人脈」、「情報」、「周りの人」などが挙げられた(図表 99)。

図表 99 主な意見(将来幸せな生活を送るために現在必要な要素)

A グループ (小学生世代)	● 日本とアメリカの交流。 ● 履歴書(解いた問題や宿題プリントを整理したファイル)を作る。勉強と書道の授業をがんばりたい。字がもっと上手になりたい。 ● 家族を大切にする。家族の手伝いをする。今は、洗濯を取り込む、食器を片づける、靴を並べるといった手伝いをしている。
B グループ (中学生世代)	● お金をたくさん貯めること、友達とたくさん遊ぶこと、家庭をつくること、何事にも挑戦すること、好きなことをたくさんすることで将来幸せになる生活を送れると思う。 ● 自分の好きなことができる心の余裕と、経済的安心が欲しい。 ● 遊ぶこと、学力、お金が大事だと思う。
C グループ (高校生世代)	● いろいろな人と関わること。交友関係を広げたら、いろんな考え方や価値観が生まれると思う。 ● 勉強。勉強していなかったら気づかないうちに損しちゃいそう。税金とか。 ● バス代の無料化。通学で、田舎過ぎてバスがなくて乗り換えに時間がかかる。 ● 健康。これが一番大事。健康じゃないと将来生きていけない。自分の周りの人たちにも健康であってほしい。 ● お金を稼ぐこと、貯めること。自分が結婚してこどもができたときに、こどもにいい体験をさせたい。
D グループ (若者世代)	● たくさんの趣味があると、私生活もより充実するかなと思う。 ● 遊ぶなら近くに公園があった方がいい。あとは運動ができる場所、大人が運動して健康になれるみたいな施設があるといい。球技ができるなど、優しく、みんななんでもできるような所がいい。 ● こどもを育てるために経済的な支援や、保育所やサービスを使い、働きながらこどもを育てられる環境。 ● 選択肢がある生活を送るために、まずは心の余裕。別の道を選んでもいいんだという心の余裕が必要。

「あなたが思い描く将来の幸せな生活を実現するために、自分以外の誰かからどんなサポートがあったら嬉しいですか」という質問に対しては、サポートとして、移動手段(送迎、バス)、体験、寄り添い、奨学金、制度の情報発信などが挙げられた(図表 100)。

図表 100 主な意見(あったら嬉しいサポート)

A グループ (小学生世代)	● 思いつかない。 ● 思いつかない。自分ががんばればできると思う。勇気があれば。
B グループ (中学生世代)	● バスケクラブだから、県大会のときの送迎や軽食などをたくさんやってほしい。 ● 10 分前登校してって言われるけど、ちょっとそれなくしてほしいかな。15 分後から遅刻なのに、10 分前に登校しないと怒られる。 ● 近くのお店でお姉ちゃんが働いているけど最低賃金で働いているって言ってたから、さすがにちょっと給料を上げてほしいなと思う。
C グループ (高校生世代)	● 先生にもっと親身になってほしい。話を聞いてほしいと思う。 ● 奨学金。大学を考えると、特に沖縄はひとり親世帯が多かったりするので、それで将来の幅が狭まるのはもったいない。大学や私立の高校に通いたい子たちのための奨学金は必要だと思う。
D グループ (若者世代)	● 企業(職場)の仕事の具体的な情報をもっと発信してほしい。入社 1～5 年目の若手を中心に異業種交換会をした方がよいと思う。 ● 地域でこどもと遊ぶ環境を作るための政策。意識の改革をした方がいいと思っている。 ● 国自体もいろんな制度があるのは重々承知だけど、時代に政策が追いついていない気がする。ちょっとした日常の、本当にちょっとしたことで、ちょっと我慢しようかなって思う現実がある。

また、若者世代(グループ D)のみ、自分のこども時代を振り返って、「あなたが小学生・中学生・高校生のときに、こういうことをしておけばよかった、こういうサポートがあればよかったと思うことはありますか」という質問をしたところ、チャレンジしやすい環境や好きなこと、将来を見据えたスキルなどが挙げられた(図表 101)。

図表 101 主な意見(しておけばよかったこと・あったら嬉しかったサポート(若者世代))

D グループ (若者世代)	● やってみたいことをやれる環境。 ● 徒歩圏内で大きな遊具のある公園があれば楽しかったらと思う。 ● 今自分がやっている勉強が何のためにやっているか、学んできたことが将来こういうのに役に立つんだよ、という情報を吸収できていたら良かったと思う。キャリア教育みたいに、今勉強しているのは大人になってこういう職業に役立つんだよと分ければ、学習意欲をもって勉強する人も増えるのではないかな。 ● 今の自分が好きなこととちゃんと向き合って、鋭く、尖ってもいいので、好きなことを思いっきりやってほしい。 ● 経験や体験ができるような、経済的な問題や家庭の問題等で修学旅行などを諦めないような環境にする支援が必要。修学旅行などを諦めることは、その子にとっても友達である自分にとっても辛い。家庭の経済環境はこどもに関係ないから、その子の人生の思い出が消されるような、なくなるようなことは、幸せとは違うのではないかな。
------------------	---

さらに、本業務で実施したアンケート調査の結果を用いて「沖縄県の幸福度が全国と比べて高いのですが、どういうことが理由だと思えますか」という質問をしたところ、沖縄の特性として、「人のよさ」をあげる参加者が多かった。また、自分が嫌なことをされていない(マイナスの状態ではない)ために幸せという発想も見られ、何と比較しての幸福度なのか、個人差が出た(図表 102)。

図表 102 主な意見(沖縄県の幸福度が高い理由)

A グループ (小学生世代)	● 運動会のリレーで、「がんばれー！」と応援してくれる。 ● 住民が優しい、沖縄は名物が多い(ちんすこう、沖縄そば、サーターアンダーギー、サトウキビ)。学校で友達同士で計算問題のやり方を教えあったりするから。 ● やってほしいことを誰かがやってくれているから。
B グループ (中学生世代)	● あまり犯罪が身近じゃないから。電車などがいないから痴漢などの心配もない。 ● ちょっとたったら顔見知りになるくらいの人しかいない。 ● 沖縄は車社会だから、部活とか送り迎えしてくれる親が多いから、楽しく過ごせると思う。 ● まちを歩いたり家に帰るときに、近所の人や交通パトロールの人が挨拶したり、話しかけてくれたりして、親しみやすさがあるから幸せなんじゃないかなって思う。
C グループ (高校生世代)	● 親が県外出身でそれと比べると、沖縄はあったかい人が多いと聞く。 ● 沖縄は狭いから、一人ひとりとのつながりが強いと感じる。例えば近所の付き合いで、正月にお年玉をもらったりする。 ● 小学校までは大阪にいて、中学校から石垣島にいる。沖縄は人柄がよい。学校でも、沖縄では廊下で先輩とすれ違う時に挨拶するし、名前呼びをする。大阪では無視が当たり前で名字呼びだった。 ● 中学受験があまりないからだと思う。
D グループ (若者世代)	● 寒くないから。 ● 寒くないから。東京と比較して人のつながりの種類が違う。つながりが強い ● 団結力があるから。今年の甲子園はすごかった。一丸となる、みんなで一つになろうとする意識は高い。沖縄を応援しようとする動きや気持ちがある。 ● 地元愛が強いから。

b. 【テーマ 2】子どもから意見(声)をもらうためにはどのような方法がよいか。

「あなたやあなたのお友達が、もっとこういう場に興味をもったり、参加してくれるようになるためにどうしたらよいか考えているのですが、どんな方法がよいと思いますか」という質問に対しては、アンケートが身近であり、手軽という意見が多かった。ただし、学校経由など安心したルートからのものであることが求められた。一方、真面目な内容などは対面ヒアリングが良いという意見もあった(図表 103)。

図表 103 主な意見(意見や声をもらう方法)

A グループ (小学生世代)	(楽しいテーマのとき) ● 主張したいときは対面がよい。 ● 圧倒的にオンラインがよい。顔は見せない方がよい。対面だと恥ずかしい。 (悩みなど重たいテーマのとき) ● アンケート、意見箱がよい。緊張すると言葉に詰まる。オンラインだとすぐ答えないといけない。後で大人から連絡が来るなら SNS の DM。 ● まずは意見箱がよい。悩みを話すのは恥ずかしい。その後連絡が来た後は、1 対 1 で直接話したい。直接話すとき保護者はいない方がよい。
B グループ (中学生世代)	● アンケートの方が国などにしか見られないし、自分一人のペースでできたりするから、本音が言えるのかなって思う。 ● 学校のアンケートだったら、一応、信用できるから答えてもいいかなと思う。 ● 同じ年代の人たちで一緒のグループに分かれて、知らない人同士で話し合う方が、知らない人だし同じ世代だから気持ちもちよっと近いから話し合えるかなって思う。 ● 字を書いたり、スマホで答えたりすると履歴が残っちゃう。だから、直接話した方が安心は一応あるかなって思う。形に残ると、もしかしたら広まるかもしれない。 ● 知らない人じゃなくて、病院の先生やカウンセラーの人などだったら、いい対応をしてくれそうだから話せる。
C グループ (高校生世代)	● アンケートが一番やりやすそう。オンラインの方が気軽にやれる。 ● ぱっと答えられることならアンケートだが、適当に答えがち。真剣な話を聞きたいときは対面で話す方がいと思う。 ● ある程度、顔見知りのほうがいろいろ言いやすい。 ● 全く知らない人の方が言いやすい。 ● めっちゃ聞きたいって人がいい。めっちゃ聞きたがりマンがいたらいいなと思う。 ● 離島の意見を聴くためには、那覇まで来る方がいい。本島に来れる機会を作ってもらえるのなら、みんなもいっぱい参加したいって思ってくれる気がする。

D グループ (若者世代)	● 対面と1対1はどちらが意見を言いやすいか→対面(4人とも) ● 圧倒的に対面がよい。自分を含めて偶数の人数が話しやすいので好き。多すぎるとあまり話せない。 ● 意見を聞く側が学校に行く。深い意見がほしいなら、別の場所で初めて顔を合わせるより、こども達と話し慣れている人が行く方が、こどもたちは活発に話ができる。違うんじゃないかという意見も、私はそう思うという意見も言いやすい。 ● SNSのDMよりは学校での募集がよい。情報源が学校の方が安心する。DMだと個人を特定されるし、詐欺やスパムと勘違いする。 ● 意見交換の理想の人数は3～5人。沖縄は知り合いとつながる可能性が高く、知らない人同士の方が意見しやすい。
------------------	--

また、本業務で実施したアンケート調査の結果を用いて「あなたは将来、進学や就職のために沖縄県から他の都道府県や海外に出ていこうと思いますか。沖縄県を出た後に、その先の将来で沖縄県に戻ってこようと思いますか」という質問をしたところ、小学生では「まだ分からない」、中高生では「沖縄では限られているから外の世界を知りたい」、若者世代は「沖縄にずっといたい」といった意識が見られた。一方で、沖縄は暮らしやすい(人がいい、気候がいいなど)から戻ってきたい、沖縄に還元したいという沖縄愛も強くみられた(図表 104)。

図表 104 主な意見(沖縄の転出意向)

A グループ (小学生世代)	● 4.まだわからない ● 2.他県に出るがいずれ沖縄に戻る。 ● 進学や就職するときに県外に引っ越すかもしれない。その後はわからない。英語を習っていることも関係すると思う。 ● 2.他県に行った経験を沖縄で活かしたい。雪など沖縄にはないものを見たい。体験したい。それを家族に伝えたい。沖縄をもっと良くしたい。
B グループ (中学生世代)	● 2.大学進学で1回出ていきそうだから。 ● 強いて言えば1.1 回出ると帰るのが面倒くさいから、沖縄と九州にでっかい海中道路などがない限りは帰ってこない。あと、雪を見てみたい。 ● 2.過ごしやすい。小さいから動きやすい。沖縄以外に行ったら、また一から友達や知り合いを作らないといけないから、沖縄に戻ってきて友達などと住んだほうがいいかなって思う。
C グループ (高校生世代)	● 3.沖縄が大好きで、地元も好き。大学も沖縄で進む。内地に行ったらめっちゃお金がかかる。 ● 2.姉が東京の大学に進学して、親戚も関東出身で周辺にいますので、大学は関東に行きたい。スポーツで東京の強豪校に入学して、大学でも部活したい。 ● 2.沖縄は好きだけど、一人暮らししたいこともあって、県外、内地の大学に行きたい。沖縄に戻りたい理由は、普通に沖縄が好きだし、沖縄で作った交友関係なども大事にしていきたいから。 ● 2.あまり決まっていないが、ぼやっと沖縄は出たい。沖縄を出たい理由は、具体的にはあまりないが、いろんな選択肢は内地の方があると思うし、企業も内地の方がいるから、自分のしたいことが見つけやすいと思った。
D グループ (若者世代)	● 4人とも3(ずっと沖縄にいる)。 ● 職場の人との関係があるから。職場の人との関係性が本土と比べると強く、転職したとしても県内で働いた方がやりやすい。 ● 東京はインターンで2週間生活したが、満員電車や通勤時間が長いなど辛い。東京で働くイメージがなかった。 ● 沖縄が好き。沖縄の食べ物や環境が好き。沖縄を出る理由がない。不便がない。 ● 家族と離れるのがさみしい。 ● 沖縄は人のつながりが強いと感じる。つながりが強いと感じるのは、正月や結婚式など人が集まるイベント。

※ 【選択肢】

- 1:進学や就職で他の都道府県・海外に出るつもりで、そのあと沖縄県内(本島以外も含む)に戻る予定はない
- 2:進学や就職で他の都道府県・海外に出るが、いずれ沖縄県内(本島以外も含む)に戻る予定である
- 3:他の都道府県・海外に出ずに、ずっと沖縄県(本島以外も含む)にいますつもり
- 4:まだわからない

(3) 結果の報告資料

こども・若者意見交換会の意見概要について、結果の報告資料にまとめ、参加者に配布した(図表 105～図表 107)。

図表 105 こども・若者意見交換会の結果の報告資料(1/3)



図表 106 こども・若者意見交換会の結果の報告資料(2/3)

沖縄県の幸福度が全国と比べて高いのですが、
 ということが理由だと思いますか？



あまり犯罪が身近じゃないから。車移動も多いし、電車みたいに知らない人と密室になることもあまりないから。(中学生)

沖縄は狭いから、一人ひとりのつながりが強いと感じる。例えば近所の付き合いで、正月にお年玉をもらったりする。そういうことをしてくれる人が多いと思うから、幸せ度が高いのではないかな。(高校生)

中学受験がないからだと思う。びりびりしない。受かったか、落ちたかがない。(高校生)

団結力があるから。今年の甲子園はすごかった。一丸となる、みんな一つになろうとする意識は高い。沖縄を応援しようとする動きや気持ちがある。(若者世代)

ちょっとたったら顔見知りになるくらいの人が少ない。(中学生)

まちを歩いたり家に帰るときに、近所の人や交通パトロールの人があいさつをしたり、話しかけてくれたりして、親しみやすさがあるから 幸せなんじゃないかなって思う。(中学生)

寒くないから。夏も猛暑日ほぼなく、1年の気温の差が少ないから。(若者世代)

運動会のリレーで、「がんばれー！」と応援してくれる。(小学生)

地元愛が強いから。(若者世代)

住良が強いし、沖縄は名物が多い。ちんすこう、沖縄そば、サターアダーギー、サトウキビ。(小学生)

親が海外出身でそれと比べると、沖縄はあったかい人が多いと思う。(高校生)

あなたやあなたのお友達が、もっとこういう場に興味をもったり、参加してくれるようになるためにどうしたらよいかわかっているのですが、どんな方法がよいと思いますか？

実施方法について /

◆ アンケート ◆

- アンケートが一番やりやすい。オンラインの方が気軽にやれる。(高校生)
- アンケートの方が国などにしか見られないし、自分一人のペースでできたりするから、本音と言えるかなって思う。誰もいないときにもできるし、隠さなくていい。(中学生)
- 学校のアンケートだったら、周りに聞きたい人は聞けばいいし、聞きたくない人は聞かずに一人でやればいい。(中学生)
- 話さなくても書ける子もいるのでアンケートに書いて伝えたい。(若者世代)
- 授業の一環みたいな、授業みたいに絶対にやることとしてやたらいいと思う。アンケートは無視する人がいるので、目の前で先生に終わったっていう画面が表示されるのを見る。(中学生)

◆ ヒアリング(対面) ◆

- ばつと答えられることならアンケートだが、適当に答えがち。学校でアンケートを求められても適当にはいって感じてやってしまうときがあるので、真実な話を聞きたいときは対面で話す方がいいと思う。(高校生)
- 同じ年代の人たちで一緒にグループに分かれて、知らない人同士で話し合う方が、知らない人だし同じ世代だから気持ちもちよっと近いから話し合えるかなって思う。(中学生)
- 対面の方がいい。オンラインはアカウント登録など少し面倒くさいなって思うから、来て、そのまま話して、終わりがいい。(高校生)
- 対面、1対1のインタビュー形式がよい。特に小学生は自分の意見を伝えるのが難しいと思うので、気持ちをくみ取れる大人がいる対面がよいと思う。(若者世代)
- 顔を合わせて話をすることがやりやすい。自分の考えをしゃべって気持ちよくできる。(若者世代)

◆ ヒアリング(オンライン) ◆

- オンラインが良い。顔は見えない方がよい。対面で恥ずかしい。(小学生)
- 字を書いたり、スマホで答えたりすると態度が現れちゃう。だから、直接話した方が安心は一応あるかなって思う。形に残ると、もしかしたら広まるかもしれない。それがちょっと、嫌というかなら、直接話した方が安心できる。(中学生)
- オンライン、顔が見えるから、見えようと思う。(中学生)
- オンラインでも Wi-Fi 環境が整ったり、つながらなかつたら、止まるのはストレス。わざわざ面倒くさい手続きをして、いざやろうと思ったのに止まったりしたら、もう本当に面倒くさい。(高校生)

募集方法について /

- SNS の DM よりかは学校の募集がよい。情報源が学校の方が安心する。DM だと個人を特定されるし、詐欺やスパムも動揺する。(若者世代)
- 学校のアンケートだったら、一応、信用できるから答えてもいいかなと思う。(中学生)
- 学校で毎年、インターネット上のクラスルームがあって、そこなら見ている人もたくさんいるから、そこで先生に告知してもらうのが一番安心できる。(中学生)

実施場所について /

- 今日みたいな場の方がバスも通っているし、終わったらどこに何かがという計画も立てられるから、集団で来たりしやすいと思う。(高校生)
- 今日みたいな会場で開放的で明るく話しやすい。(若者世代)
- 遠いとか、バスで来るのが大変とかもあると思うので、家などどこでもできるオンラインもいいと思う。(高校生)
- 意見を聞く前が学校に行く。(若者世代)
- 学校の保健室など、呼ばれたら行く方法で体力検査みたいな感じのやつがいいと思う。実施場所が遠いと行けない人も出てくると思う。(中学生)

やりとりの相手・誰から話を聞かれるとよいか /

- 信頼できる人。友達や親など。(中学生)
- ある程度顔見知りの方がいる方がいい。(高校生)
- 知らない人じゃなくて、病院の先生やカウンセラーの人などだったら、いい対応してくれそうだから話せる。(中学生)
- めっちゃ聞きたいという人がいい。めっちゃ聞きたがりマンがいたらいいと思う。(高校生)
- 聞いてくれた方が、自分が何を話せばいいかわかりやすいし、相手がちゃんと聞いてくれたんだみたいなのが分かるからいいと思う。(高校生)
- 全く知らない人でもいい。直接話を聞いてくれる方が素直いを感じる。(若者世代)



あなたやあなたのお友達が、大人に自分の意見や考えを伝えたいと思うのはどんな時ですか？

伝えたくないと思うのはどんな時ですか？

伝えたい内容・話しやすい内容 /

◆ どのような内容？ ◆

- 人間関係の悩み。先生に、こういうことを聞きたいんだけどどうやって聞けばいいかなとか、友達とちょっとけんかしちゃったんだけどどうしたら仲直りできるかなとか聞きたい。(高校生)
- 道徳について話したい。親に対してはお金を出してもらうので話さない、と思う。(高校生)

◆ どのような方法がいい？ ◆

- 主観したいときは対面がよい。(小学生)

伝えたくない内容・話しづらい内容 /

◆ どのような内容？ ◆

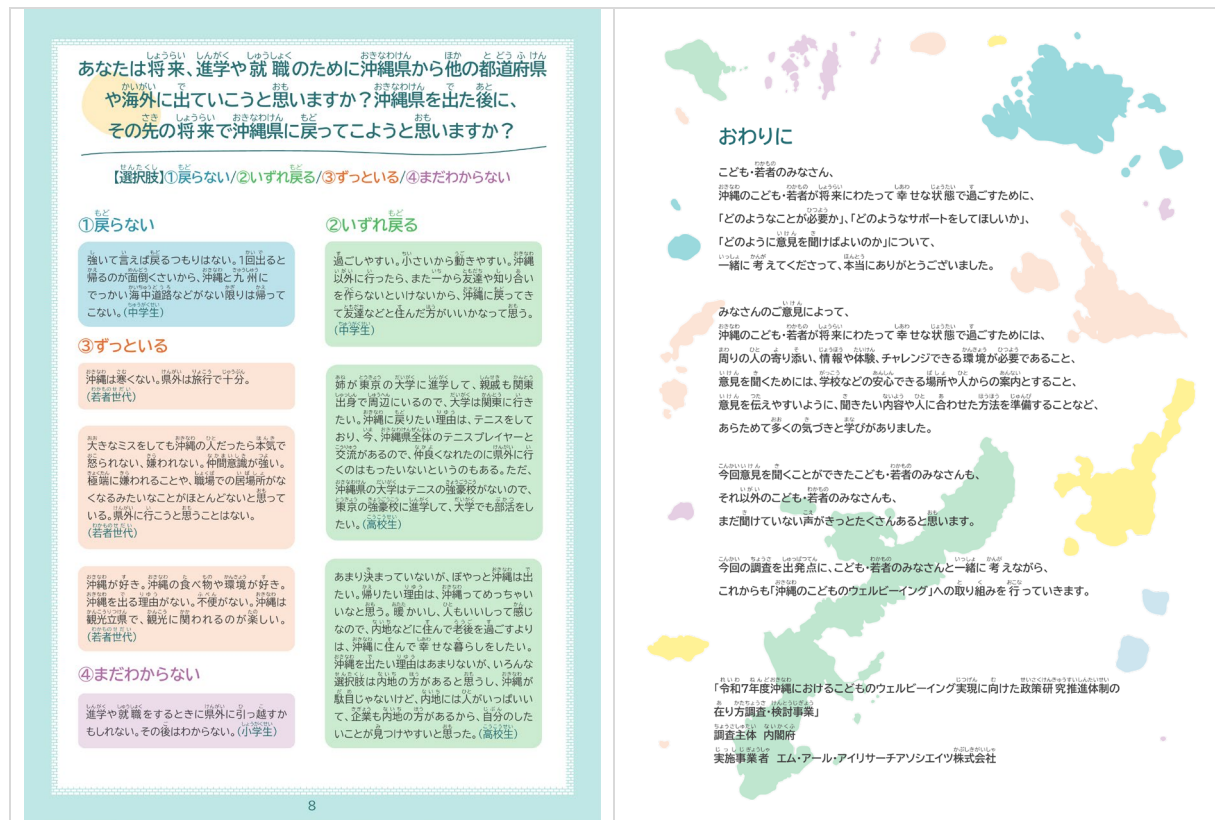
- 友人関係。例えば親が知っている自分の友達、たばこをやったりお酒をやったりしたら、自分もそういう交友関係を持っているから心配される。(高校生)
- 恋愛関係の悩みは聞かれない。(高校生)
- プライベート過ぎなかつたら話してもいいけど、プライベート過ぎたら怖くてあまり話さないことかな。(中学生)
- 沖縄は狭いので情報が広まってしまう。ナイーブな話などは対面では話しづらい。(若者世代)

◆ どのような方法がいい？ ◆

- まずは意見がよい。悩みを話すのは恥ずかしい。その後連絡が来た後は、1対1 で直接話したい。直接話さずき保護者はいない方がよい。(小学生)
- アンケートなら匿名だから、プライベートなことや悩み、いじめにあったことがあるかなど、答えやすい。(中学生)
- 完全に知り合い同士ではない人たちが集まって話す場合には話しやすい。友達同士で集まって対面という聞かれない話も話しづらい。(若者世代)

89

図表 107 こども・若者意見交換会の結果の報告資料(3/3)



2.5 協議体の意見

沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性について、協議体では、こどもの長期的成長、こどもに関わる大人のウェルビーイング、学校との連携、サポートの仕方の改善、サービス供給体制の在り方等、以下のような意見があった(図表 108)。

図表 108 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性に関する協議体の意見

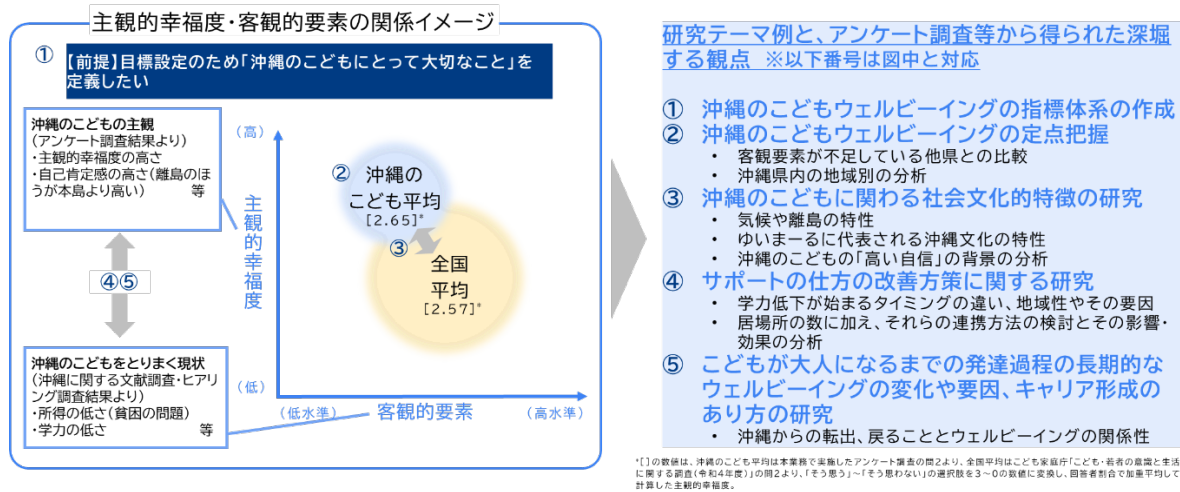
こどもと大人の関わり方	● こどもと関わるうえで、沖縄のこどもたちにどんな若者・大人になってほしいのかをしっかりと考えていきたい。 ● こどもに携わる大人の意識が低いと感じる。関わる人の意識を変えることが重要。そのあたりの調査、取組があるとよい。 ● 沖縄では地域の子は地域で育てるという言葉があるが、どれだけそういった地域の大人がいるかという点では、こども会や PTA などの地域団体も減少して壊滅するかもしれない。 ● こどもにとって最大の環境は親・家庭。家庭・保護者に対する支援を充実させる必要がある。学校現場でソーシャルワーカーと取組を行っているが、限界がある。 ● 中高生から児童養護施設に入るこどもたちが非常に多くなっている。こどもたちとの信頼関係が必要であり時間のかかる仕事だが、職員の離職率が高い。
こどもの成長、長期的にみたウェルビーイングの視点、キャリア形成に係る問題	● 今困難な状況にある人がどういうライフコースとなるか。苦しんでいる成人した人、若者はどういうこども時代を送ってきたか。 ● こどもは成長が重要。こうだったらこうなるというのを研究にしてほしい。 ● 沖縄のこどもは進路未決定のまま高校卒業してしまうという問題がある。
こどもに関わる大人、支援者のウェルビーイングの向上の必要性	● 関わる大人の幸福度が上がるとこどもの幸福度もあがる。/保護者のウェルビーイングがないといけない。/大人のウェルビーイングもしっかりとしなければならない。 ● 子育てが親任せになるのではないかと危惧。その辺の提言がほしい。
サポートの仕方の改善方策	● 困りごとがあったときに相談する体制ができていない。地域や関係者に知られる懸念もあり、困った状態をなかなか感知できない。 ● 医療費が無料でも利用されていないのは保護者が休めない、給料が減る、交通費がかかるから。 ● 健診での再検査で受診していない人の割合が沖縄は高い。どういう背景の人たちかを、福祉とつなげた分析をするよい。 ● 医療だけでなく身体的、精神的、社会的なサポートが必要。
サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウィンウィンの仕組み構築のために	● 職員がいっぱいいっぱい人手が足りない。 ● 学校現場をどうサポートするかが重要。/居場所と学校がつながっていない。 ● 学生ボランティアの活用等により、みんながちよっとずつでウィンウィンの関係をつくっている。 ● 人材育成も重要。支援員の充実のためにどういう方を採用するのか、どう研修していくのか。

2.6 現状・課題・特殊性とウェルビーイングの観点の有効性・必要性の整理

本章では、論点①として、沖縄におけるこどものウェルビーイングの検討や対応の必要性について検討した。具体的には、沖縄におけるこどもを取り巻く現状・課題・特殊性等について文献調査、既存調査の整理・分析、ヒアリング調査、アンケート調査を実施した。

ウェルビーイングの観点をういて、主観的幸福度・客観的要素の関係性を整理したイメージが、図表 109 である。アンケート調査からは、全国と比較して、沖縄のこどもは主観的幸福度が高い状態であることが示されたが、文献調査やヒアリング調査等からは、所得の低さ、学力など、問題も残されていることが分かった。ここから、例えば、ウェルビーイングの観点をういた①～⑤のような研究を行うことの必要性が協議体の場で確認された。

図表 109 主観的幸福度・客観的要素の関係イメージ



また、協議体においては、こどものウェルビーイングのためには、「沖縄の子どもにとって大切なこと」を検討することの必要性が議論され、こども・若者(本人)の要素と、環境要因(本人以外)の要素があることを確認した(図表 110)。なお、これらは現段階での検討すべき観点であり、今後、調査の進捗(特に沖縄のこどもの特徴)に合わせて更新されることが想定される。

図表 110 沖縄の子どもにとって大切なこと

